

《人づくり分野》

生涯学習部

2024年度 課別行政評価シート

部名	生涯学習部	課名	生涯学習総務課	歳出目名	社会教育総務費
事業類型	c:その他型				

1.組織概要

組織の使命	総務担当課として適切な部内運営に寄与し、関係部署が事業を円滑に推進できるようにします。町田市固有の文化財・歴史資料の保護・管理等に努め、それらに触れる機会の提供・情報の発信により、市民が郷土への理解と愛着を深められるようにします。	取り組み等	◆「町田デジタルミュージアム」を利用して、誰もがインターネット上でいつでも、どこでも、無料で町田市の歴史資源（考古・歴史・民俗資料）約2,000点を見ることができます。歴史資源をデジタルで公開しているのは、多摩26市中で14市（23区中では15区）です。
所管事務	◆生涯学習部の総務担当課の事務等に関する事 ◆生涯学習及び社会教育の基本的な方針に関する事 ◆生涯学習審議会及び文化財保護審議会に関する事 ◆文化財の保護、調査及び収集等に関する事 ◆考古資料室に関する事		

2.2023年度末の総括と2024年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆「町田市教育プラン24-28」に定めた各施策及び重点事業を確実に進める必要があります。
◆高ヶ坂石器時代遺跡については、未整備部分の工事を着実に推進するとともに、整備後には遺跡の効果的な活用を図る必要があります。
◆考古資料室に併設しているプレハブ収蔵庫は築40年以上が経過し、老朽化が進んでいることから、新たな保管場所を確保するのか、収蔵庫を修繕するのかなど、最適な収蔵環境の整備についての検討が必要です。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み（1～2年）		中長期的な取り組み（3～5年）	
◆高ヶ坂石器時代遺跡の未整備箇所の整備を進めるとともに、遺跡の魅力を発信していきます。◆町田の歴史や文化を学ぶことができるデジタルコンテンツを作成するなど、歴史資料の活用を進めます。◆出張歴史授業として、遺跡等を見学するコースを新設するなど、プログラムの充実に取り組みます。		◆「町田市教育プラン24-28」に基づき、各事業を推進します。◆町田デジタルミュージアムについて、内容の充実や利便性の向上を図るため、計画的な更新に向けた検討を行います。◆遺跡や古民家等、市が所有する歴史資源の整備や修繕を計画的に検討し、順次実施します。	
取組状況	個別取組	○高ヶ坂石器時代遺跡は、八幡平遺跡の整備工事を完了し、12月に実施したパネル展は期間中に155人の来場がありました。 ○デジタルコンテンツについて、児童が町田の養蚕について学ぶことができる動画を作成し、YouTubeで公開を開始しました。 ○出張歴史授業に「遺跡等見学プログラム」を新設し、本町田遺跡にて小学生への展示・復元住居の解説授業を実施しました。	

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
学校施設活用制度の試行・検証・導入	-	目標	-	-	試行準備	試行	導入校拡大	利用申込のシステム化等、学校施設の地域活用に向けた取組状況
		実績	-	-	試行準備		(2028年度)	
遺跡等整備事業進捗状況	-	目標	見学会実施	半場遺跡整備	八幡平遺跡整備	耐震基礎診断実施	補強工事完了	～2024年度は高ヶ坂石器時代遺跡(半場・稲荷山・八幡平)整備、2025年度以降は重要文化財旧永井家住宅の整備
		実績	全面公開	整備完了	整備完了		(2028年度)	
考古資料室の見学者数	人	目標	360	650	650	650	650	考古資料室年間見学者数
		実績	621	686	480		(2025年度)	

②成果指標およびその他成果の説明

◆「学校開放事業」について、2024年度市民参加型事業評価の結果や生涯学習審議会委員からの意見を踏まえ事業の改善プログラムを作成し、2025年度からの実施に向けた準備に着手しました。◆高ヶ坂石器時代遺跡整備事業は、八幡平遺跡の整備工事を完了し、12月にパネル展「写真で見る高ヶ坂石器時代遺跡の整備」と解説講座を実施しました。展示期間中155人の来場、解説講座は21人の来場があり、満足度は90.5%でした。◆考古資料室は2022年度の展示リニューアルや特別開室での見学者数が近年増加傾向にありましたが、2024年度は本町田遺跡の展示リニューアルや相模原市と連携した考古学講座の実施等に注力し、2023年度は4回実施した特別開室を1回としたため、見学者数は2023年度と比較して30.0%減少しました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目		2022年度	2023年度 A	2024年度 B	差額 B-A	勘定科目		2022年度	2023年度 A	2024年度 B	差額 B-A
行政費用	人件費	85,103	87,263	90,430	3,167	行政収入	地方税	0	0	0	0
	うち時間外勤務手当	805	416	559	143		保険料	0	0	0	0
	物件費	49,407	14,738	24,151	9,413		国庫支出金	7,537	8,932	5,535	△ 3,397
	うち委託料	47,909	13,461	22,294	8,833		都支支出金	870	5,109	7,209	2,100
	維持補修費	486	20,263	13,142	△ 7,121		分担金及負担金	0	0	0	0
	扶助費	0	0	0	0		使用料及手数料	472	478	490	12
	補助費等	1,174	24,988	1,262	△ 23,726		その他	122	172	269	97
	減価償却費	7,329	7,338	9,588	2,250		行政収入 小計(a)	9,001	14,691	13,503	△ 1,188
	不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0		行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 142,387	△ 153,677	△ 142,598	11,079
	賞与・退職手当引当金繰入額	7,889	13,778	17,528	3,750		金融収支差額 (d)	△ 165	△ 149	0	149
	行政費用 小計 (b)	151,388	168,368	156,101	△ 12,267		通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 142,552	△ 153,826	△ 142,598	11,228
特別費用 (g)		0	0	0	0	特別収入 (f)		6,207	0	0	0
特別収支差額 (f)-(g)=(h)		6,207	0	0	0	当期収支差額 (e)+(h)		△ 136,345	△ 153,826	△ 142,598	11,228

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	物件費
決算額の主な内訳	人件費 89,027千円 文化財保護審議会委員報酬 984千円 生涯学習審議会委員報酬 419千円	史跡高ヶ坂石器時代遺跡整備事業報告書作成業務委託 3,982千円 埋蔵文化財調査委託 3,630千円 本町田遺跡公園管理業務委託 3,006千円 村野常右衛門生家管理及び清掃業務委託 1,562千円 など
主な増減理由	職員構成の変動等により3,167千円増加。	博物館からの本町田遺跡公園事業の移管により、施設管理等に係る委託料が5,472千円増加。
勘定科目	維持補修費	補助費等
決算額の主な内訳	本町田遺跡公園縄文住居周壁修繕 8,844千円 高ヶ坂石器時代遺跡整備工事(七期) 3,740千円 旧永井家住宅梁脱落防止応急修繕 253千円 考古資料室トップライト硝子交換修繕 105千円 など	町田市指定文化財管理公開謝礼 515千円 町田市指定無形民俗文化財保護育成補助金 306千円 町田市文化財保護事業費補助金 200千円 文化庁調査官出張旅費実費負担分 28千円 など
主な増減理由	博物館から移管された本町田遺跡公園の縄文住居周壁修繕等のため、市有文化財の修繕料が6,678千円増加。 高ヶ坂石器時代遺跡整備に係る工事費が9,732千円減少。	町田市文化財保護事業費補助金が23,759千円減少。

③貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目			2023年度末	2024年度末	差額	勘定科目			2023年度末	2024年度末	差額
			A	B	B-A				A	B	B-A
流動資産	未収金		0	0	0	流動負債			14,227	14,925	698
	不納欠損引当金		0	0	0		還付未済金		0	0	0
	その他の流動資産		0	0	0		地方債		5,728	5,728	0
固定資産	事業用資産	有形固定資産	831,036	1,093,277	262,241		賞与引当金		8,499	9,197	698
		土地	708,422	954,086	245,664		その他の流動負債		0	0	0
		建物(取得価額)	343,690	404,174	60,484	固定負債			110,739	112,242	1,503
		建物減価償却累計額	△ 221,076	△ 264,983	△ 43,907		地方債		30,568	30,568	0
		工作物(取得価額)	0	0	0		退職手当引当金		80,171	81,674	1,503
		工作物減価償却累計額	0	0	0		その他の固定負債		0	0	0
	インフラ資産	無形固定資産	80	71	△ 9	負債の部合計			124,966	127,167	2,201
		有形固定資産	0	0	0	純資産			707,950	967,981	260,031
		土地	0	0	0						
		工作物(取得価額)	0	0	0						
		工作物減価償却累計額	0	0	0						
	建設仮勘定	無形固定資産	0	0	0						
		建設仮勘定	0	0	0						
	その他の固定資産		1,800	1,800	0	純資産の部合計			707,950	967,981	260,031
資産の部合計			832,916	1,095,148	262,232	負債及び純資産の部合計			832,916	1,095,148	262,232

④貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	建物(事業用資産)	無形固定資産(事業用資産)	その他の固定資産
決算額の主な内訳	村野常右衛門生家 141,778千円 本町田遺跡公園 多目的施設 31,112千円 など	商標権(まっくう) 71千円	須恵器横瓶 1,800千円
主な増減理由	博物館からの本町田遺跡公園内の多目的施設や復元住居等の移管により、60,484千円増加。 減価償却により、43,907千円減少。	減価償却により9千円減少。	増減なし

⑤キャッシュ・フロー収支差額集計表

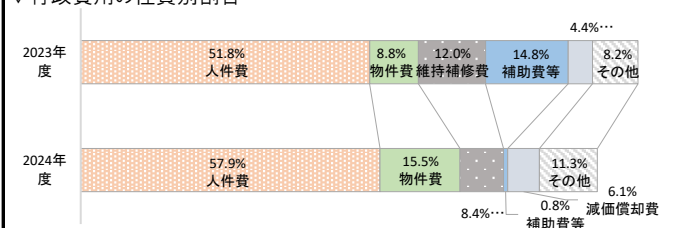
(単位:千円)

勘定科目	金額	勘定科目	金額	勘定科目	金額
行政サービス活動収入	13,503	社会資本整備等投資活動収入	0	財務活動収入	0
行政サービス活動支出	144,311	社会資本整備等投資活動支出	0	財務活動支出	0
行政サービス活動収支差額(a)	△ 130,808	社会資本整備等投資活動収支差額(b)	0	財務活動収支差額(c)	0
				収支差額 合計 (a)+(b)+(c)	△ 130,808
				一般財源充当調整額	130,808

5.財務構造分析

6.個別分析

▽行政費用の性質別割合



▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2024 合計	2023 合計
生涯学習審議会事務	0.5					0.5	0.6
生涯学習総務課管理事務	5.4			0.2		5.6	3.8
文化財保護事務	3.8			0.7		4.5	4.9
考古資料室管理事務	0.3			0.1		0.4	0.8
						0.0	0.0
2024年度 歳出目 合計	10.0	0.0	0.0	1.0	0.0	11.0	10.1
2023年度 歳出目 合計	9.0	0.0	0.0	1.1	0.0	10.1	

7.総括

①財務情報・非財務情報に基づく有効性の分析

◆多摩地域の社会教育委員・生涯学習審議会委員を対象に「生涯学習と学校教育の連携」をテーマとした研修会を12月に実施し、123名の方に参加いただきました。実施後のアンケートでは「質の高い内容で大変勉強になった」など好評な意見をいただきました。◆東京都指定史跡本町田遺跡公園内のガイダンスルームの展示を、「まっくう」も活用し、子どもにもわかりやすくリニューアルしました。リニューアル記念講座には32人の来場があり、「説明を聞いて理解が深まった」「他の遺跡についても聞いてみたい」などの好評を多くいただき、町田市の遺跡や歴史に興味をもってもらうきっかけを提供できました。

②財務情報・非財務情報に基づく効率性の分析

◆民有指定文化財の保全・修繕に対する補助金の交付案件が2023年度と比較して減少したため、補助費等が24,988千円から1,262千円(△23,726千円)に減少しました。◆2024年度は本町田遺跡の展示リニューアルや相模原市と連携した考古学講座の実施等に注力し、2023年度は4回実施した特別開室を1回としたため、考古資料室管理事務に係る人員は0.8人から0.4人(△0.4人)に減少しました。◆学校開放事業の見直しに向け、改善プログラムの作成や予約システム等の試行準備を進めたため、生涯学習総務課管理事務に係る人員は3.8人から5.6人(+1.8人)に増加しました。

③2024年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

◆「学校開放事業」について、市民参加型事業評価を受けて作成した改善プログラムに定めた取組を着実に進める必要があります。◆町田デジタルミュージアムについて、より幅広い世代の学習・研究ツールとして効果的に利用していただけるよう、内容の充実を図る必要があります。◆市が所有する歴史資源について、計画的な修繕や、適切な維持管理を行いながら、それらに触れる機会の提供や情報発信を行う必要があります。◆考古資料室他、所管施設・文化財の維持管理にかかるコスト増への対応が必要です。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆地域の方々により便利に学校をご利用いただくことを目指し予約システム等の試行・検証を行います。◆町田デジタルミュージアムをより幅広い世代に利用いただけるよう、公開内容の更新を行います。◆国重要文化財旧永井家住宅の耐震基礎診断を実施します。	◆「地域活用型学校」の実現に向け、学校施設の地域活用を推進するための仕組みを整えます。◆町田デジタルミュージアムについて、内容の充実や利便性の向上を図るため、計画的に更新していきます。◆国重要文化財旧永井家住宅の耐震事業を着実に実施します。

2024年度 事業別行政評価シート

部 名		生涯学習部	主管課名		生涯学習総務課
歳出目名	社会教育総務費	特定事業名	文化財保護事業	事業類型	4:その他型

1.事業概要

事業目的	町田市固有の歴史資源(※)の保護・維持・管理に努め、市民がそれらに触れられる機会の提供及び情報を発信することにより、市民が郷土への理解と愛着を深められるようにします。 ※歴史資源とは…文化財に限らず、地域の歴史を伝える資料の総称				
基本情報	根拠法令等				
		2022年度	2023年度	2024年度	国指定文化財件数
	高ヶ坂石器時代遺跡整備事業進捗状況	見学会実施	牢場遺跡整備	八幡平遺跡整備	東京都指定文化財件数
	町田デジタルミュージアム進捗状況	全面公開	利用促進	更新検討	町田市指定・登録文化財件数
					埋蔵文化財包蔵地数

2. 2023年度末の総括と2024年度の状況

①「成果及び財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆町田デジタルミュージアムについて、魅力あるコンテンツとして今後より多くの方に利用していただくため、利用状況を検証し、内容の更新を図る必要があります。
- ◆高ヶ坂石器時代遺跡については、未整備部分の工事を着実に推進するとともに、整備後には遺跡の効果的な活用を図る必要があります。
- ◆民有の指定文化財について、経年劣化に伴う修繕に要する費用の補助等、適切な維持管理のための支援を継続的に行う必要があります。
- ◆市が所有する歴史資源について、計画的な修繕や、適切な維持管理を行いながら、それらに触れる機会の提供や情報発信を行う必要があります。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み(1～2年)		中長期的な取り組み(3～5年)	
◆町田デジタルミュージアムの内容更新の検討を行います。◆高ヶ坂石器時代遺跡の未整備箇所の整備を進めるとともに、遺跡の魅力を発信をしていきます。◆2024年度に博物館から移管される本町田遺跡の展示のリニューアルを行います。◆町田の歴史や文化について知り、学ぶことのできるデジタルコンテンツを作成するなど、歴史資料の活用を進めます。		◆町田デジタルミュージアムについて、内容の充実や利便性の向上を図るため、計画的な更新に向けた検討を行います。◆民有の指定文化財について、必要な修繕等の対応ができるよう支援します。◆遺跡や古民家等、市が所有する歴史資源の整備や修繕を計画的に検討し、順次実施します。	
取組状況	○	町田デジタルミュージアムの内容更新に向けて、他自治体事例等の研究や更新の方向性の検討を行いました。	
	○	高ヶ坂石器時代遺跡は、八幡平遺跡の整備工事を完了し、パネル展と解説講座を実施し、遺跡の魅力を発信しました。	
	○	デジタルコンテンツについて、児童が町田の養蚕について学ぶことのできる動画を作成し、YouTubeで公開を開始しました。	

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
遺跡等整備事業進捗状況	-	目標	見学会実施	牢場遺跡整備	八幡平遺跡整備	耐震基礎診断実施	補強工事完了	～2024年度は高ヶ坂石器時代遺跡、2025年度～は旧永井家住宅宅耐震事業
		実績	全面公開	整備完了	整備完了		(2028年度)	
町田デジタルミュージアムアクセス数	件	目標	76,000	120,000	150,000	190,000	190,000	町田デジタルミュージアムのアクセス数
		実績	118,196	141,081	186,016		(2025年度)	

②成果指標およびその他成果の説明

- ◆高ヶ坂石器時代遺跡整備事業は、八幡平遺跡の整備工事が11月に完了し、12月にパネル展「写真で見る高ヶ坂石器時代遺跡の整備」と解説イベントを実施しました。会場となった芹ヶ谷ひだまり荘では「まちだシールラリー2024 Winter」の指定ポイントとして「まっくう」のシールを配布し、展示期間中155人の来場がありました。現地での解説講座は21人の来場があり、満足度は90.5%でした。◆自由民権資料館・考古資料室等の展示に付けている二次元コードが、各館のアンケートで好評をいただいており、町田デジタルミュージアムのアクセス数は186,016件で、2023年度と比較して31.9%増加しました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目		2022年度	2023年度	2024年度	差額	勘定科目		2022年度	2023年度	2024年度	差額
			A	B	B-A				A	B	B-A
行政費用	人件費	38,185	40,667	36,367	△ 4,300	行政収入	地方税	0	0	0	0
	物件費	43,193	12,088	20,896	8,808		国庫支出金	3,779	8,932	5,535	△ 3,397
	うち委託料	42,381	11,604	20,314	8,710		都支出金	870	5,109	7,209	2,100
	維持補修費	486	15,992	12,938	△ 3,054		分担金及負担金	0	0	0	0
	扶助費	0	0	0	0		使用料及手数料	457	463	470	7
	補助費等	1,149	24,889	1,049	△ 23,840		その他	122	172	269	97
	減価償却費	4,362	4,371	6,881	2,510		行政収入 小計(a)	5,228	14,676	13,483	△ 1,193
	不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0		行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 88,297	△ 89,779	△ 68,292	21,487
	賞与・退職手当引当金繰入額	6,150	6,448	3,644	△ 2,804		金融収支差額 (d)	△ 165	△ 149	△ 132	17
	行政費用 小計 (b)	93,525	104,455	81,775	△ 22,680		通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 88,462	△ 89,928	△ 68,424	21,504
	特別費用 (g)	0	0	0	0		特別収入 (f)	0	0	2,039	2,039
	特別収支差額 (f)-(g)=(h)	0	0	2,039	2,039		当期収支差額 (e)+(h)	△ 88,462	△ 89,928	△ 66,385	23,543

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	物件費	維持補修費
決算額の主な内訳	高ヶ坂石器時代遺跡整備事業報告書作成業務委託 3,982千円 埋蔵文化財調査委託 3,630千円 本町田遺跡公園管理業務委託 3,006千円 など	本町田遺跡公園縄文住居周壁修繕 8,844千円 高ヶ坂石器時代遺跡整備工事(七期) 3,740千円 旧永井家住宅梁脱落防止応急修繕 253千円 など
主な増減理由	博物館からの本町田遺跡公園事業の移管により、施設管理等に係る委託料が5,472千円増加。	博物館から移管された本町田遺跡公園の縄文住居周壁修繕等のため、市有文化財の修繕料が6,678千円増加。 高ヶ坂石器時代遺跡整備に係る工事費が9,732千円減少。
勘定科目	補助費等	国庫支出金
決算額の主な内訳	町田市指定文化財管理公開謝礼 515千円 町田市指定無形民俗文化財保護育成補助金 306千円 町田市文化財保護事業費補助金 200千円 など	国宝重要文化財保存・活用事業費補助金<史高ヶ坂石器時代遺跡歴史活き活き! 史跡等総合活用整備事業> 3,725千円 など
主な増減理由	町田市文化財保護事業費補助金が23,759千円減少。	高ヶ坂遺跡整備に対する国宝重要文化財保存・活用事業費補助金が3,407千円減少。

③単位当たりコスト分析

※単位当たりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位当たりコスト	対前年度	単位当たりコストの増減理由
		2024				
		2023				
		2022				
		2024				
		2023				
		2022				

④貸借対照表

(単位:千円)

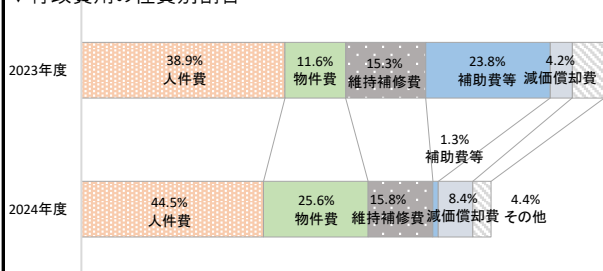
勘定科目			2023年度末 A	2024年度末 B	差額 B-A	勘定科目			2023年度末 A	2024年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金		0	0	0	流動負債			9,634	9,389	△ 245
	不納欠損引当金		0	0	0		還付未済金		0	0	0
	その他の流動資産		0	0	0		地方債		5,728	5,745	17
固定資産	事業用資産	有形固定資産	722,289	987,237	264,948	固定負債	賞与引当金		3,906	3,644	△ 262
		土地	653,734	899,398	245,664		その他の流動負債		0	0	0
		建物(取得価額)	202,490	262,974	60,484		負債の部合計		76,116	65,473	△ 10,643
		建物減価償却累計額	△ 133,935	△ 175,135	△ 41,200		地方債		30,568	24,823	△ 5,745
		工作物(取得価額)	0	0	0		退職手当引当金		35,914	31,261	△ 4,653
		工作物減価償却累計額	0	0	0		その他の固定負債		0	0	0
	インフラ資産	無形固定資産	80	71	△ 9	純資産	純資産の部合計		646,253	921,835	275,582
		有形固定資産	0	0	0						
		土地	0	0	0						
		工作物(取得価額)	0	0	0						
資産の部合計	負債及び純資産の部合計	建設仮勘定	0	0	0	負債及び純資産の部合計			722,369	987,308	264,939
		その他の固定資産	0	0	0						
			722,369	987,308	264,939						

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	土地(事業用資産)	建物(事業用資産)	無形固定資産(事業用資産)
決算額の主な内訳	本町田遺跡公園 245,664千円 田端遺跡 220,285千円 など	村野常右衛門生家 141,778千円 本町田遺跡公園 多目的施設 31,112千円 など	商標権(まっくう) 71千円
主な増減理由	博物館からの本町田遺跡公園の移管により、245,664千円増加。	博物館からの本町田遺跡公園内の多目的施設や復元住居等の移管により、60,484千円増加。減価償却により、41,200千円減少。	減価償却により、9千円減少。

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合

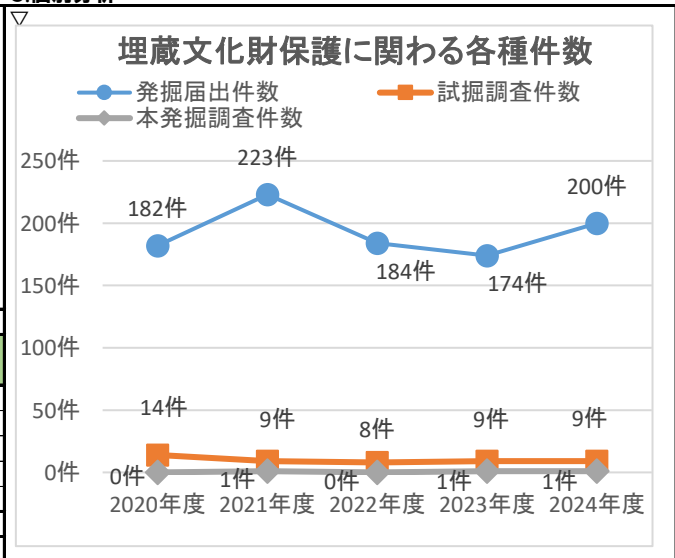


▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容		常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2024 合計	2023 合計
内訳	文化財保護審議会事務局事務	0.2					0.2	0.2
	文化財保護事務	0.6					0.6	2.1
	文化財整備保存事業	1.1					1.1	0.7
	埋蔵文化財保護事業	0.9			0.2		1.1	1.3
	文化財普及事業	1.1			0.5		1.6	0.6
2024年度 特定事業 合計		3.9	0.0	0.0	0.7	0.0	4.6	4.9
2023年度 特定事業 合計		4.0	0.0	0.0	0.9	0.0	4.9	

6.個別分析



7.総括

①財務情報・非財務情報に基づく有効性の分析

◆高ヶ坂石器時代遺跡の八幡平遺跡の整備完了後に実施したパネル展「写真で見える高ヶ坂石器時代遺跡の整備」と解説イベントは、参加者から「以前から気になっていたのでもっと知ることができて良かった」「実際に現地を見て説明してもらいとても良かった」と好評をいただきました。◆2024年度から生涯学習総務課の所管となった東京都指定史跡本町田遺跡の縄文住居の修繕を実施し12月に完了しました。また、遺跡公園内のガイダンスルームの展示を、「まっくう」も活用し、子どもにもわかりやすくリニューアルしました。リニューアル記念講座には32人の来場があり、「説明を聞いて理解が深まった」「他の遺跡についても聞いてみたい」などの好評を多くいただき、町田市の遺跡や歴史に興味をもってもらえるきっかけを提供できました。

②財務情報・非財務情報に基づく効率性の分析

◆民有指定文化財の保全・修繕に対する補助金の交付案件が2023年度と比較して減少したため、補助費等が24,889千円から1,049千円(△23,840千円)に減少しました。◆2024年度は文化財の普及・活用事業に注力したため、本町田遺跡ガイダンスルームの展示リニューアルや町田の養蚕を学ぶ動画制作、まだ縄文キャラクター「まっくう」グッズ作成等、考古・歴史・民俗資料活用事業にかかる費用が298千円から744千円(+446千円)に、事業に関わる人員が0.6人から1.6人(+1人)に増加しました。◆本町田遺跡公園縄文住居周壁修繕に東京都の補助金を活用したことにより、都支出金が5,109千円から7,209千円(+2,100千円)に増加しました。

③2024年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

- ◆町田デジタルミュージアムについて、より幅広い世代の学習・研究ツールとして効果的に利用していただけるよう、内容の充実を図る必要があります。
- ◆整備が完了した高ヶ坂石器時代遺跡をはじめとする市内遺跡・文化財の効果的な活用を図る必要があります。
- ◆市が所有する歴史資源について、計画的な修繕や、適切な維持管理を行いながら、それらに触れる機会の提供や情報発信を行う必要があります。
- ◆民有の指定文化財について、経年劣化に伴う修繕に要する費用の補助等、適切な維持管理のための支援を継続的に行う必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆町田デジタルミュージアムをより幅広い世代に利用していただけるよう、公開内容を更新します。◆整備が完了した国指定史跡高ヶ坂石器時代遺跡をはじめとする市内の遺跡を活用したイベントを実施します。◆国重要文化財旧永井家住宅の耐震基礎診断を実施します。◆まちだの歴史資源の見どころや講座・イベントを、市内外に広くPRする手法を検討し、実施します。	◆町田デジタルミュージアムについて、内容の充実や利便性の向上を図るため、計画的に更新していきます。◆国重要文化財旧永井家住宅の耐震事業を着実に実施します。◆民有の指定文化財について、必要な修繕等の対応ができるよう支援します。◆遺跡や古民家等、市が所有する歴史資源の整備や修繕を計画的に検討し、順次実施します。

2024年度 事業別行政評価シート

部名	生涯学習部	主管課名	生涯学習総務課
歳出目名	社会教育総務費	特定事業名	考古資料室事業
事業類型	2:施設運営型		

1.事業概要

事業目的	町田市固有の考古資料の収集、整理、調査、保管に努め、市民がそれらに触れる機会・場所の提供及び情報を発信することにより、市民が郷土への理解と愛着を深められるようにします。					
基本情報	根拠法令等					
		2022年度	2023年度	2024年度	施設の名称	町田市考古資料室
	考古資料室見学者数	621	686	480	建設年月日	1991年3月19日
	アウトリーチ展示開催件数	2	4	5		2022年度 2023年度 2024年度
					有形固定資産減価償却率	63.9% 61.6% 63.4%

2. 2023年度末の総括と2024年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆2023年2月に行った常設展示のリニューアル後、見学者数は増加していますが、引き続き、より多くの方に見学していただくためのPRが必要です。
- ◆2022年度から開始した小中学校向け出張歴史授業について、より多くの学校に利用していただけるようなプログラムを提供する必要があります。
- ◆考古資料室に併設しているプレハブ収蔵庫は築40年以上が経過し、老朽化が進んでいることから、新たな保管場所を確保するのか、収蔵庫を修繕するのかなど、最適な収蔵環境の整備についての検討が必要です。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み(1~2年)		中長期的な取り組み(3~5年)	
◆まちだ縄文キャラクター「まっくう」を活用するとともに、アウトリーチ展示や出張歴史授業等を通じて、収蔵する考古資料の周知・PRを積極的に行います。		◆考古資料を後世に引き継ぐことができるよう、最適な収蔵環境の整備に向けた検討を行います。	
◆出張歴史授業として、考古資料室を見学してもらうコースを新設するなど、プログラムの充実に取り組みます。			
取組状況	個別取組	○ 2024年8月の広報まちだ特集号でのPRや特別開室の実施により、夏休み期間中の7月から8月は141人の来室がありました。	
		○ 「Dive in TOKYO町田」(NHK WORLD)で考古資料室が取り上げられ、学芸員が展示の解説をし、世界にも情報発信できました。	
		○ 出張歴史授業に「施設見学プログラム」を新設し、プログラムの充実に取り組みました。	

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
考古資料室の見学者数	人	目標	360	650	650	650	650	考古資料室年間見学者数
		実績	621	686	480		(2025年度)	
アウトリーチ展示開催件数	件	目標	2	3	4	5	5	収蔵資料を活用し、考古資料室以外で実施した展示会の件数
		実績	2	4	5		(2025年度)	

②成果指標およびその他成果の説明

- ◆2022年度の展示のリニューアルや特別開室により、見学者数が増加傾向にありましたが、2024年度は本町田遺跡の展示リニューアルや相模原市と連携した考古学講座の実施等に注力し、2023度は4回実施した特別開室を1回としたため、見学者数は2023年度と比較して30.0%減少しました。◆収蔵品のアウトリーチ展示を、パネル展「写真で見る高ヶ坂石器時代遺跡の整備」や相模原市との連携講座「まちの歴史、さがしてみました～まちさが考古学講座～」の会場、あつぎ郷土博物館をはじめとする他自治体博物館の企画展にて実施し、市内外の方に町田の考古資料をご覧いただくことができました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目		2022年度	2023年度	2024年度	差額	勘定科目		2022年度	2023年度	2024年度	差額
			A	B	B-A				A	B	B-A
行政費用	人件費	5,376	5,981	3,077	△ 2,904	行政収入	地方税	0	0	0	0
	物件費	6,159	2,472	2,512	40		国庫支出金	3,759	0	0	0
	うち委託料	5,528	1,857	1,980	123		都支支出金	0	0	0	0
	維持補修費	0	4,271	204	△ 4,067		分担金及負担金	0	0	0	0
	扶助費	0	0	0	0		使用料及手数料	0	0	0	0
	補助費等	0	0	0	0		その他	0	0	0	0
	減価償却費	2,967	2,967	2,706	△ 261		行政収入 小計(a)	3,759	0	0	0
	不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0		行政収支差額(a)-(b)=(c)	△ 13,115	△ 16,406	△ 8,818	7,588
	賞与・退職手当引当金繰入額	2,372	715	319	△ 396		金融収支差額(d)	0	0	0	0
	行政費用 小計(b)	16,874	16,406	8,818	△ 7,588		通常収支差額(c)+(d)=(e)	△ 13,115	△ 16,406	△ 8,818	7,588
特別費用(g)		0	0	0	0	特別収入(f)		0	0	2,390	2,390
特別収支差額(f)-(g)=(h)		0	0	2,390	2,390	当期収支差額(e)+(h)		△ 13,115	△ 16,406	△ 6,428	9,978

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	物件費
決算額の主な内訳	人件費 3,077千円	除草及び低木剪定業務委託料 717千円 施設管理業務委託料 694千円 機械警備業務委託料 234千円 など
主な増減理由	職員構成の変動及び、文化財保護事業としての取り組みが増えた(考古資料室以外の展示・イベントなど他の事業に注力した)ことにより、2,904千円減少。	除草及び低木剪定、建物清掃にかかる委託料が39千円増加。 産業廃棄物収集運搬処分委託料が45千円増加。 防火窓遮光カーテン製作業務にかかる委託料が74千円増加。
勘定科目	維持補修費	
決算額の主な内訳	トップライト硝子交換修繕 105千円 外壁補修修繕 99千円	特になし
主な増減理由	考古資料室屋上他改修工事の終了などにより4,067千円減少。	

③単位当たりコスト分析

※単位当たりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位当たりコスト	対前年度	単位当たりコストの増減理由
見学者1人あたりコスト	人	2024	480	18,371	△ 5,544	考古資料室以外の展示・イベントに注力したことから、2023年度と比較して見学者数は206人(30.0%)減少しましたが、行政費用も7,588千円減少したため、見学者1人あたりのコストは5,544円(23.2%)減少し、18,371円となりました。
		2023	686	23,915	△ 3,257	
		2022	621	27,172	△ 7,055	
		2024				
		2023				
		2022				

④貸借対照表

(単位:千円)

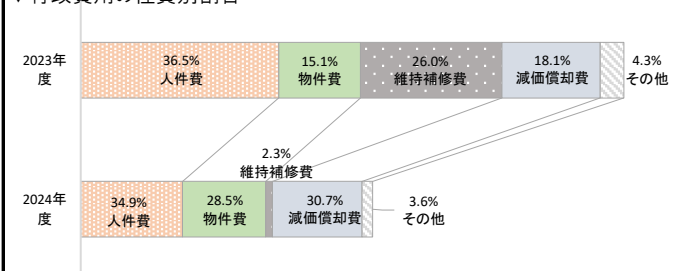
勘定科目				2023年度末 A	2024年度末 B	差額 B-A	勘定科目				2023年度末 A	2024年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金		0	0	0	流動負債		570	319	△ 251			
	不納欠損引当金		0	0	0		還付未済金	0	0	0			
	その他の流動資産		0	0	0		地方債	0	0	0			
固定資産	事業用資産	有形固定資産	108,746	106,040	△ 2,706	固定負債	賞与引当金	570	319	△ 251			
		土地	54,688	54,688	0		その他の流動負債	0	0	0			
		建物(取得価額)	141,200	141,200	0		負債の部合計	5,108	2,508	△ 2,600			
		建物減価償却累計額	△ 87,142	△ 89,848	△ 2,706		地方債	0	0	0			
		工作物(取得価額)	0	0	0		退職手当引当金	5,108	2,508	△ 2,600			
		工作物減価償却累計額	0	0	0		その他の固定負債	0	0	0			
	インフラ資産	無形固定資産	0	0	0	負債の部合計	5,678	2,827	△ 2,851				
		有形固定資産	0	0	0	純資産		104,868	105,013	145			
		土地	0	0	0								
		工作物(取得価額)	0	0	0								
		工作物減価償却累計額	0	0	0								
		無形固定資産	0	0	0								
建設仮勘定	0	0	0										
その他の固定資産		1,800	1,800	0	純資産の部合計	104,868	105,013	145					
資産の部合計			110,546	107,840	△ 2,706	負債及び純資産の部合計	110,546	107,840	△ 2,706				

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	土地(事業用資産)	建物(事業用資産)	その他の固定資産
決算額の主な内訳	考古資料室 54,688千円	考古資料室 141,200千円	須恵器横瓶 1,800千円
主な増減理由	増減なし	減価償却により2,706千円減少。	増減なし

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



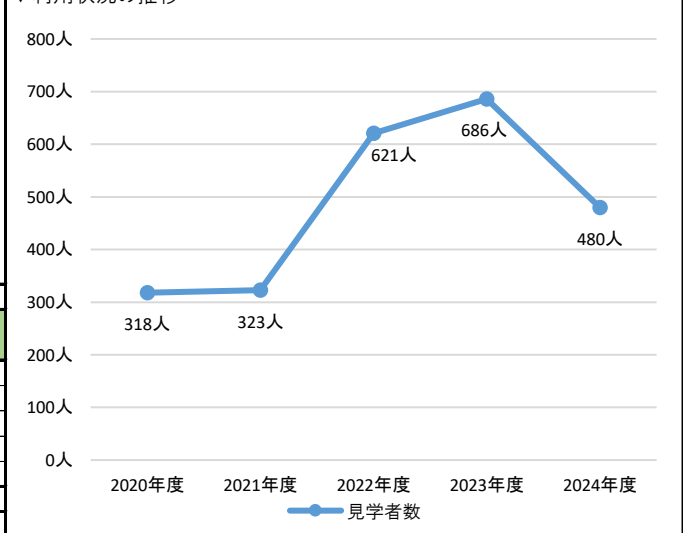
▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2024	2023
						合計	合計
考古資料室管理事務	0.3			0.1		0.4	0.8
						0.0	0.0
						0.0	0.0
						0.0	0.0
						0.0	0.0
2024年度 特定事業 合計	0.3	0.0	0.0	0.1	0.0	0.4	0.8
2023年度 特定事業 合計	0.6	0.0	0.0	0.2	0.0	0.8	

6.個別分析

▽利用状況の推移



7.総括

①財務情報・非財務情報に基づく有効性の分析

◆夏休みの特別開室イベントでは、子ども向けにワークシートの配布や学芸員による展示解説を行い、32人の見学者がありました。アンケートでは、「町田に遺跡があるのを初めて知って新鮮だった」、「くわしく説明してもらえて理解が深まった」、「学校の授業ではわからなかったが、ここに来てから遺跡に興味を持った」等好意的なご意見を多くいただきました。◆パネル展「写真で見る高ヶ坂石器時代遺跡の整備」にて考古資料室の収蔵品を展示し、展示期間中155人の来場がありました。◆相模原市教育委員会文化財保護課、相模原市立博物館と連携した考古学講座を実施しました。考古資料室の収蔵品の展示・解説も実施し、定員80名を大きく上回る150名の参加がありました。

②財務情報・非財務情報に基づく効率性の分析

◆2024年度は本町田遺跡の展示リニューアルや相模原市と連携した考古学講座の実施等に注力し、2023年度は4回実施した特別開室を1回としたため、考古資料室管理事務に係る人員は0.8人から0.4人(△0.4人)に減少しました。◆外壁や屋上ガラスの破損に対応するための修繕を実施しましたが、屋上防水、建具・内装改修、展示ケースの修繕を実施した2023年度と比較して、維持補修費は4,271千円から204千円(△4,067千円)に減少しました。◆物件費のうち委託料は、建物清掃や除草及び低木剪定業務の委託料の上昇や、産業廃棄物収集運搬処分及び遮光カーテン製作にかかる業務委託の発生に伴い、1,857千円から1,980千円(+123千円)に増加しました。

③2024年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

◆引き続き、考古資料室以外の会場でのイベント・企画の実施も積極的に行い、より多くの方に収蔵する考古資料を見学していただくためのPRが必要です。◆施設の維持管理にかかるコストが増加しているため、省エネ化等、コストの削減を進める必要があります。◆考古資料室に併設しているプレハブ収蔵庫は築40年以上が経過し、老朽化が進んでいることから、最適な収蔵環境の整備についての検討が必要です。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆アウトリーチ展示や出張歴史授業、地域のイベントと連動した特別開室等を通じて、収蔵する考古資料のPRを積極的に行います。 ◆照明のLED化による省エネ化を進めます。 ◆防草シートの敷設等により維持管理コストの削減を図ります。	◆考古資料を後世に引き継ぐことができるよう、最適な収蔵環境の整備に向けた検討を行います。

2024年度 課別行政評価シート

部名	生涯学習部	課名	生涯学習総務課	歳出目名	自由民権資料館費
				事業類型	e:事業型(施設運営)

1.組織概要

組織の使命	自由民権運動及び町田の歴史に関する資料を収集、保管し、調査、研究の成果で展示などをおこない、町田市の郷土資料館として、自由民権運動と町田の歴史について市民の理解を深めます。	取扱い 自 治 体 等 の	◆「自由民権運動」を冠する公立博物館は、全国で高知市立自由民権記念館、福島県三春町自由民権記念館及び当館の3館のみです。また、自由民権運動、近代史を専門とする学芸員が在籍しているのは、町田市立自由民権資料館だけです。
所管事務	◆自由民権運動及び町田の歴史に関する資料の収集及び保管、展示、閲覧、調査、研究及び、図書の刊行。普及事業の講座、各種イベントの開催に関すること。		

基本情報	根拠法令等								
		2022年度	2023年度	2024年度	施設の名称	町田市立自由民権資料館			
	開館日数	258	307	289	建設年月日	1986年3月31日			
	特別展・企画展開催回数	3	2	2		2022年度	2023年度	2024年度	
	講座実施回数	32	79	73	有形固定資産減価償却率	44.4%	45.3%	47.3%	

2.2023年度末の総括と2024年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆小・中学生に町田の歴史に興味を持ってもらうため、出張歴史授業の活用が進むよう市内小・中学校への周知を工夫するとともに、授業プログラムやコンテンツの充実を図ることが必要です。◆市内小・中学校に保管されている歴史的な資料の散逸を防ぐため、資料の現状記録、整理、評価、目録作成などの体制を整え、対応する必要があります。◆施設の老朽化に伴う計画的な修繕が必要です。また、大切な資料を守るため、展示環境や収蔵環境を最適な状態に保つことが必要です。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み(1~2年)		中長期的な取り組み(3~5年)	
◆出張歴史授業を活用してもらうため、プログラム内容の見直しを行います。 ◆いつでも、どこでも歴史に触れられるよう、デジタルコンテンツの作成に取り組みます。 ◆幅広い世代に展示内容の理解を深めてもらうため、企画展の展示物の解説をまとめた図録を作成します。		◆市内小・中学校に保管されている歴史的な資料の整理等を進め、資料の評価、保管方法等を関係者間で共有し、適正に継承できるような体制を整えます。 ◆資料の展示・収蔵環境を維持するため、総合的有害生物管理(IPM)及び施設の修繕計画を検討します。	
取組状況	◎	出張歴史授業は、プログラムを見直し「遺跡等見学コース」を新設・周知したことで、2023年度の31回を上回り、45回実施できました。	
	○	まち歴史講座の講演録3件をデジタル化し、町田の歴史をいつでも学べるようコンテンツの充実を図りました。	
	○	企画展「回せ！地域経済」の展示の様子と図録のデジタル版をホームページに掲載し、展示終了後でも見られるようにしました。	

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
自由民権資料館 利用者数	人	目標	7,000	7,000	7,200	7,200	7,200	年間の自由民権資料館来館者数及びまち歴史講座等参加者数
		実績	5,891	7,932	6,832		(2025年度)	
重要史料群の整理率	%	目標	47.5	55.0	62.5	70.0	100	歴史資料約15万件中、重要史料群約5万3千件の整理率
		実績	48.2	55.0	62.6		(2029年度)	

②成果指標およびその他成果の説明

◆ミニ企画展「計る・測る・量る」及び企画展「回せ！地域経済」を開催しました。また、「出張歴史授業」や「まち歴史講座」等の歴史資料を活用した講座を73回開催しました。自由民権資料館の休館期間があったこと、少人数での講座等を増やしたことから、年間利用者数が2023年度と比較して1,100人減少しました。◆重要史料群の整理を進め、整理率は62.6%となり目標を達成しました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2022年度	2023年度 A	2024年度 B	差額 B-A	勘定科目	2022年度	2023年度 A	2024年度 B	差額 B-A
人件費	45,188	44,567	44,322	△ 245	地方税	0	0	0	0
うち時間外勤務手当	280	118	413	295	保険料	0	0	0	0
物件費	14,874	13,290	20,861	7,571	国庫支出金	4,062	0	0	0
うち委託料	9,893	6,505	14,340	7,835	都支支出金	0	0	0	0
維持補修費	1,619	876	1,324	448	分担金及負担金	0	0	0	0
扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	0	0	0	0
補助費等	706	932	668	△ 264	その他	292	504	470	△ 34
減価償却費	9,970	9,970	10,210	240	行政収入 小計(a)	4,354	504	470	△ 34
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 73,809	△ 75,687	△ 83,152	△ 7,465
賞与・退職手当引当金繰入額	5,806	6,556	6,237	△ 319	金融収支差額 (d)	△ 84	0	△ 79	△ 79
行政費用 小計 (b)	78,163	76,191	83,622	7,431	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 73,893	△ 75,687	△ 83,231	△ 7,544
特別費用 (g)	0	0	0	0	特別収入 (f)	0	0	0	0
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	0	0	0	0	当期収支差額 (e)+(h)	△ 73,893	△ 75,687	△ 83,231	△ 7,544

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	物件費
決算額の主な内訳	常勤職員 23,750千円 会計年度任用職員 20,572千円	自由民権資料館光熱水費 5,273千円 総合的有害生物管理(IPM)業務委託 3,300千円 自由民権資料館総合管理業務委託 2,541千円 など
主な増減理由	職員構成の変動等により、人件費が245千円減少。	自由民権資料館及び三輪の森びじゅたセンターの展示室と収蔵庫の環境維持のための総合的有害生物管理(IPM)業務委託の実施などにより、委託料が7,835千円増加。

勘定科目	維持補修費	その他(行政収入)
決算額の主な内訳	自由民権資料館浄化槽蓋修繕 1,100千円 自由民権資料館自動ドア修繕 132千円 自由民権資料館3階廊下エアコン修繕 61千円 など	図書等販売代 216千円 講座等参加費 200千円 コピー機使用料 29千円 など
主な増減理由	自由民権資料館の浄化槽の蓋や自動ドアの故障に伴う修繕などを行ったことにより、448千円増加。	2023年度に比べ、図書の販売代が減ったことから図書等販売代が10千円減少。資料代等を徴収する講座等が減ったことから、講座参加費が42千円減少。

③単位当たりコスト分析

※単位当たりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位当たりコスト	対前年度	単位当たりコストの増減理由
利用者1人あたりコスト	人	2024	6,832	12,240	2,634	総合的有害生物管理(IPM)業務委託の開始、適切な資料管理のための空調稼働の実施、自由民権資料館敷地内の高中木の樹木剪定の実施などにより、2023年度と比較して、施設利用者1人あたりのコストが2,634円増加しました。
		2023	7,932	9,606	△ 3,662	
		2022	5,891	13,268	1,552	
		2024				
		2023				
		2022				

④貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目				2023年度末 A	2024年度末 B	差額 B-A	勘定科目				2023年度末 A	2024年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金		0	0	0	流動負債		9,396	9,393	△ 3			
	不納欠損引当金		0	0	0	還付未済金		0	0	0			0
	その他の流動資産		0	0	0	地方債		4,902	4,912	10			10
固定資産	事業用資産	有形固定資産	612,440	602,391	△ 10,049	賞与引当金		4,494	4,481	△ 13			
		土地	334,577	334,577	0	その他の流動負債		0	0	0			
		建物(取得価額)	502,479	502,479	0	固定負債		105,352	95,129	△ 10,223			
		建物減価償却累計額	△ 224,616	△ 234,665	△ 10,049	地方債		79,098	69,280	△ 9,818			
		工作物(取得価額)	0	0	0	退職手当引当金		26,254	25,849	△ 405			
		工作物減価償却累計額	0	0	0	その他の固定負債		0	0	0			
	インフラ資産	無形固定資産	0	0	0	負債の部合計		114,748	104,522	△ 10,226			
		有形固定資産	0	0	0	純資産		498,013	498,030	17			
		土地	0	0	0								
		工作物(取得価額)	0	0	0								
		工作物減価償却累計額	0	0	0								
		無形固定資産	0	0	0								
		建設仮勘定	0	0	0								
その他の固定資産		321	161	△ 160	純資産の部合計		498,013	498,030	17				
資産の部合計		612,761	602,552	△ 10,209	負債及び純資産の部合計		612,761	602,552	△ 10,209				

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	土地(事業用資産)	建物(事業用資産)	その他の固定資産
決算額の主な内訳	自由民権資料館 334,577千円	自由民権資料館 502,479千円	平型覗きガラスケース 161千円
主な増減理由	増減なし	減価償却により10,049千円減少。	減価償却により160千円減少。

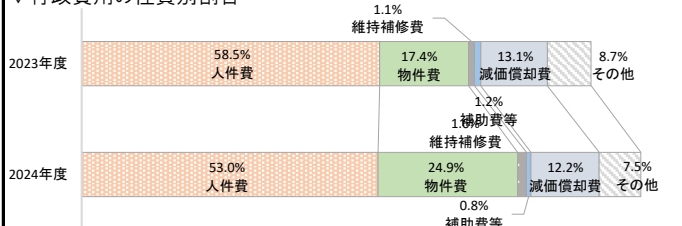
⑥キャッシュ・フロー収支差額集計表

(単位:千円)

勘定科目	金額	勘定科目	金額	勘定科目	金額
行政サービス活動収入	470	社会資本整備等投資活動収入	0	財務活動収入	0
行政サービス活動支出	73,909	社会資本整備等投資活動支出	0	財務活動支出	4,907
行政サービス活動収支差額(a)	△ 73,439	社会資本整備等投資活動収支差額(b)	0	財務活動収支差額(c)	△ 4,907
				収支差額 合計 (a)+(b)+(c)	△ 78,346
				一般財源充当調整額	78,346

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



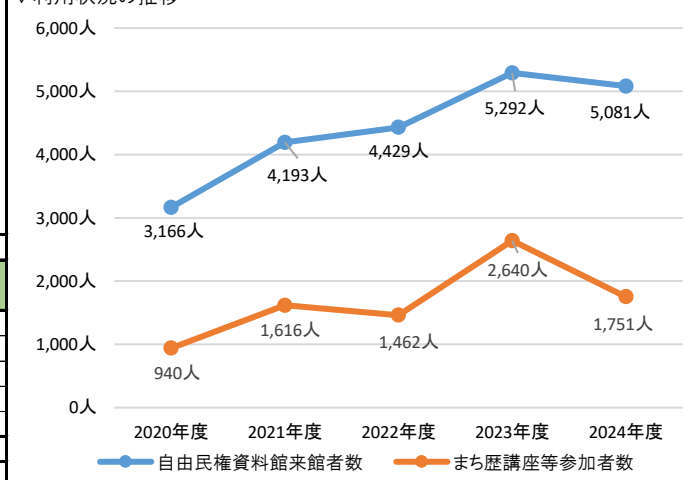
▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2024 合計	2023 合計
資料館管理事務	1.4			0.2	0.3	1.9	1.9
資料保管事務	0.5			1.2	0.6	2.3	2.4
展示事務	0.4			1.0		1.4	2.1
図書刊行				0.8		0.8	0.4
普及事務	0.7			0.7		1.4	1.8
2024年度 歳出目 合計	3.0	0.0	0.0	3.9	0.9	7.8	8.6
2023年度 歳出目 合計	3.0	0.0	0.0	4.7	0.9	8.6	

6.個別分析

▽利用状況の推移



7.総括

①財務情報・非財務情報に基づく有効性の分析

◆総合的有害生物管理(IPM)として自由民権資料館の展示室と収蔵庫内の資料を移動し、清掃などを実施したため16日間の臨時休館期間があったこと、地域の歴史資源を生かした少人数でのまち歴史講座等を増やしたことから、自由民権資料館利用者数が1,100人減少しました。◆企画展「回せ! 地域経済」の関連事業として、小野路宿里山交流館でのパネル展示と国際版画美術館での講演会を、バスツアー「五日市憲法と多摩の民権運動ゆかりの地をめぐる」など、アウトリーチ事業を実施し、多くの方に町田の歴史に興味を持っていただくことができました。

②財務情報・非財務情報に基づく効率性の分析

◆企画展「回せ! 地域経済」関連のデジタルコンテンツ4件をホームページにて公開し、時間や場所を選ばずに町田の歴史に触れられる機会を作りました。このことにより、図書刊行業務が0.4人増加しました。◆自由民権資料館及び三輪ビクターセンターの収蔵庫と展示室の環境を将来に渡って維持しながら歴史資料を適切に管理するため、総合的有害生物管理(IPM)業務委託を開始したこと、適切な資料管理のための空調稼働の実施などにより、物件費が7,571千円増加しました。

③2024年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

◆いつでもどこでも町田の歴史に触れられるよう企画展のデジタル化等、デジタルコンテンツを充実させる必要があります。◆重要史料群の整理に伴い明らかにした町田の歴史を市民の皆さんに見ていただけるよう、企画展等で活用していく必要があります。◆学校統合に伴い、小・中学校保管の歴史的な資料の現状記録、整理、評価などを行い、引き継ぐ必要があります。◆大切な資料を守るため、展示室及び収蔵庫の環境が適切に維持できるよう管理を継続する必要があります。また、空調設備の省エネルギー性能の高い設備への更新が求められています。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆町田の歴史を学ぶ機会を充実させるため、デジタルコンテンツの作成を進めるとともに、重要史料群として整理を進めている町田の歴史史料を企画展等で活用します。◆市内外問わず、多くの方が参加しやすい会場で、まちだの歴史資源を活用した新たな講座や展示を実施します。	◆資料の展示、収蔵環境を適切に維持するため、総合的有害生物管理(IPM)の方法を検証しながら実施します。◆小・中学校に保管の歴史的な資料の現状記録、整理、評価などを継続して行います。◆施設の適切な管理、維持をおこなう為、関係部署と協議しながら修繕・工事計画を検討します。

2024年度 課別行政評価シート

部名	生涯学習部	課名	生涯学習センター	歳出目名	生涯学習センター費
				事業類型	a.施設所管型

1.組織概要

組織の使命	学びに出会う機会と、学習成果をいかす機会を提供するための中核施設を担います。	他自治体の取り組み等	◆町田第一中学校では、地域団体に向けた特別教室の貸出に加え、図書室を学習スペースとして個人向けに開放しています。図書室には、地域の学生が学習支援員として常駐し、利用者の学習相談に応じています。このように、中学校の図書室を活用して、世代を問わず学習支援を行っている事例は、都内他市町村ではありません。
所管事務	◆生涯学習に係る全体計画の立案及び推進に関すること ◆市民大学事業その他の生涯学習に係る講座、講演会等の実施に関すること ◆生涯学習に係る活動支援、団体及び関係機関との連絡及び総合調整に関すること ◆生涯学習に係る情報の集約及び市民への提供、相談業務に関すること ◆生涯学習センターの施設、設備管理並びに市民への利用提供に関すること		

2.2023年度末の総括と2024年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆「町田市生涯学習センター運営見直し実行計画」に基づき、引き続き事業及び管理運営体制の見直しを進める必要があります。
- ◆効果的・効率的な施設運営のため、民間活力の導入範囲を拡大する必要があります。
- ◆市民の学習機会を充実させるため、講座のデジタル化の推進や、より多くの市民が学習情報を得やすい環境整備をする必要があります。
- ◆施設修繕に伴う休館について、市民が学習活動を継続できるよう、計画的に準備を進めていく必要があります。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み(1～2年)		中長期的な取り組み(3～5年)	
◆民間活力の導入範囲拡大に向けた準備を進めます。 ◆講座のデジタル化を推進するため、効率的な実施方法を検討します。 ◆施設修繕に伴う休館中も、市内の公共施設等で講座を実施します。 ◆引き続き、障がい者青年学級と市民大学の見直しを進めます。		◆「町田市生涯学習センター運営見直し実行計画」に基づき、事業運営及び管理運営体制の見直しを進めます。 ◆見直しを行ったものから、新たな事業運営及び管理運営体制での運用を開始します。	
取組状況	個別取組	○業務委託範囲拡大を検討した上で、生涯学習センター運営協議会にて意見を伺い、民間活力導入案を作成しました。 ○ソーシャルメディアを活用し、市民大学講座など5講座をオンデマンド配信等により実施しました。 ○市民センターなど市内の公共施設を活用し、休館中も間断なく講座・イベント等を実施しました。	

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
生涯学習センターの施設利用率	%	目標	70.0	70.0	70.0	70.0	70.0	主催事業、施設貸出等で生涯学習センターを利用した割合(新型コロナワクチン接種による利用を除く)
		実績	55.9	60.5	59.3		(2028年度)	
学習成果を今後、いかにせると答えた人の割合	%	目標	71.0	86.0	88.0	89.0	89.0	講座実施後に行うアンケートの回答で得られた割合
		実績	84.8	88.0	91.8		(2026年度)	
デジタル化した講座の割合	%	目標	-	-	4.0	5.0	10.0	主催講座に対する、デジタル化した講座の割合
		実績	-	-	4.0		(2028年度)	

②成果指標およびその他成果の説明

- ◆10月から改修工事に伴う休館となるにあたり、生涯学習センターをホームグラウンドとしていた団体が休館前から他施設の利用を始めたため、施設利用率は59.3%に留まりました。◆家庭教育支援事業や市民大学、デジタルデバッド事業等の受講者アンケート結果で「学習成果を今後、いかにせると答えた人」の割合は91.8%となり、2023年度より3.8ポイント増加しました。◆2024年度に実施した市民大学の公開講座などの主催講座のうち、デジタル配信やアーカイブ化した講座の割合は4.0%でした。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目		2022年度	2023年度	2024年度	差額	勘定科目		2022年度	2023年度	2024年度	差額
			A	B	B-A				A	B	B-A
行政費用	人件費	156,841	156,031	167,346	11,315	行政収入	地方税	0	0	0	0
	うち時間外勤務手当	8,822	7,047	8,940	1,893		保険料	0	0	0	0
	物件費	56,771	58,286	52,448	△ 5,838		国庫支出金	0	0	0	0
	うち委託料	28,489	34,040	26,233	△ 7,807		都支支出金	16,662	16,417	13,487	△ 2,930
	維持補修費	3,209	1,077	707	△ 370		分担金及負担金	0	0	0	0
	扶助費	0	0	0	0		使用料及手数料	6,997	9,248	5,438	△ 3,810
	補助費等	57,833	56,951	54,238	△ 2,713		その他	2,020	1,827	672	△ 1,155
	減価償却費	18,109	18,109	18,109	0		行政収入 小計(a)	25,679	27,492	19,597	△ 7,895
	不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0		行政収支差額(a)-(b)=(c)	△ 279,371	△ 294,300	△ 302,810	△ 8,510
	賞与・退職手当引当金繰入額	12,287	31,338	29,559	△ 1,779		金融収支差額(d)	△ 1,068	0	△ 43	△ 43
	行政費用 小計(b)	305,050	321,792	322,407	615		通常収支差額(c)+(d)=(e)	△ 280,439	△ 294,300	△ 302,853	△ 8,553
	特別費用(g)	0	0	0	0		特別収入(f)	302	0	0	0
	特別収支差額(f)-(g)=(h)	302	0	0	0		当期収支差額(e)+(h)	△ 280,137	△ 294,300	△ 302,853	△ 8,553

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	物件費	補助費等
決算額の主な内訳	生涯学習センター光熱水費 16,882千円 町田第一中学校学習支援事業等業務委託 11,171千円 生涯学習センター施設貸出・管理業務委託 7,711千円 デジタルデバッド対応促進事業業務委託 1,100千円 など	町田センタービル管理費負担金 46,841千円 障がい者青年学級担当者謝礼 3,120千円 講師謝礼 2,171千円 さがまちコンソーシアム年会費 1,000千円 など
主な増減理由	改修工事による生涯学習センター休館に伴い、施設貸出・管理業務委託や各種保守点検など委託料が7,895千円減少した一方、事務所移転に伴う運搬料等役務費が1,711千円増加。	改修工事による生涯学習センター休館に伴い、事業実施回数が減少したため、報償費が2,762千円減額。
勘定科目	都支支出金	使用料及手数料
決算額の主な内訳	子ども・長寿・居場所包括補助事業費補助金 10,000千円 障がい者施策推進包括補助事業費補助金 2,269千円 高齢者QOL向上のためのデジタル活用支援事業費補助金 257千円 など	生涯学習センター施設使用料 4,699千円 町田第一中学校施設使用料 621千円 生涯学習センター附属設備使用料 118千円
主な増減理由	デジタルデバッド事業の特定財源であった都補助金の減少により、子ども・長寿・居場所包括補助事業費補助金が2,218千円減少。	改修工事による生涯学習センター休館に伴い、施設使用料は3,955千円減少した一方で、近隣で実施している町田第一中学校については、地域利用の利用率が向上し、施設使用料が145千円増加。

③貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目		2023年度末 A	2024年度末 B	差額 B-A	勘定科目		2023年度末 A	2024年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債		15,747	17,228	1,481
	不納欠損引当金	0	0	0		還付未済金	0	0	0
	その他の流動資産	0	0	0		地方債	778	778	0
固定資産	有形固定資産	2,152,479	2,134,371	△ 18,108	賞与引当金		14,969	16,450	1,481
	土地	1,706,823	1,706,823	0		その他の流動負債	0	0	0
	建物(取得価額)	778,241	778,241	0	固定負債		134,322	268,291	133,969
	建物減価償却累計額	△ 332,585	△ 350,693	△ 18,108		地方債	13,111	144,333	131,222
	工作物(取得価額)	0	0	0		退職手当引当金	121,211	123,958	2,747
	工作物減価償却累計額	0	0	0	その他の固定負債		0	0	0
	無形固定資産	0	0	0		負債の部合計	150,069	285,519	135,450
	インフラ資産	0	0	0	純資産		2,006,655	1,853,097	△ 153,558
	建設仮勘定	0	0	0					
	その他の固定資産	4,245	4,245	0		純資産の部合計	2,006,655	1,853,097	△ 153,558
資産の部合計		2,156,724	2,138,616	△ 18,108	負債及び純資産の部合計		2,156,724	2,138,616	△ 18,108

④貸借対照表の特徴的事項

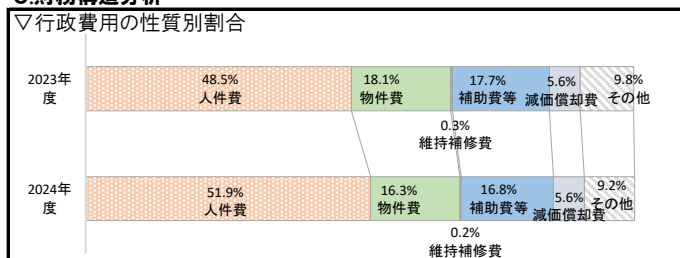
勘定科目	土地(事業用資産)	建物(事業用資産)	その他の固定資産
決算額の主な内訳	生涯学習センター 1,706,823千円(区分所有持分100万分の254,148)	生涯学習センター 778,241千円	出資金((株)町田センタービル) 2,985千円 重要物品 1,260千円
主な増減理由	増減なし	減価償却により、18,108千円減少	増減なし

⑤キャッシュ・フロー収支差額集計表

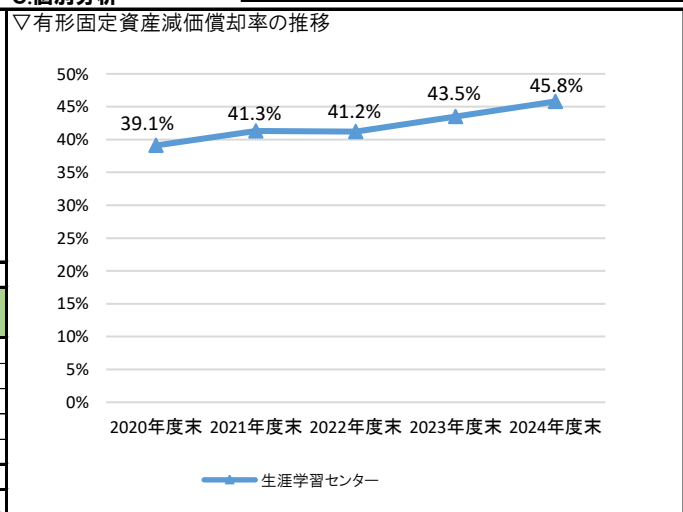
(単位:千円)

勘定科目	金額	勘定科目	金額	勘定科目	金額
行政サービス活動収入	19,597	社会資本整備等投資活動収入	0	財務活動収入	132,000
行政サービス活動支出	300,113	社会資本整備等投資活動支出	0	財務活動支出	778
行政サービス活動収支差額(a)	△ 280,516	社会資本整備等投資活動収支差額(b)	0	財務活動収支差額(c)	131,222
				収支差額 合計 (a)+(b)+(c)	△ 149,294
				一般財源充当調整額	149,294

5.財務構造分析



6.個別分析



▽事業に関わる人員 (単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2024 合計	2023 合計
生涯学習センター管理事務	4.8			0.3		5.1	6.3
生涯学習支援事業	2.2			0.7		2.9	4.0
生涯学習講座事業	6.8			5.9	0.7	13.4	12.6
施設管理	1.2			1.0		2.2	1.9
						0.0	0.0
2024年度 歳出目 合計	15.0	0.0	0.0	7.9	0.7	23.6	24.8
2023年度 歳出目 合計	15.0	0.0	1.1	8.0	0.7	24.8	

7.総括

①財務情報・非財務情報に基づく有効性の分析

◆講座実施後に行うアンケートで「学習成果を今後、いかせる」と答えた人の割合は、2023年度の88.0%から91.8%(+3.8ポイント)に増加しました。この増加の要因としては、デジタルデバイス解消事業等を各地域において実施し、新規受講者の増加を図ったことにより、新たな学びの機会を創出できたことが挙げられます。◆学習意欲のある市民が時間や場所の制約なく学べるよう、実施講座のデジタル配信やアーカイブ化を本格実施しました。2024年度に実施した主催講座のうち、デジタル化した講座の割合は4.0%となりました。

②財務情報・非財務情報に基づく効率性の分析

◆行政費用に占める人件費の割合が増加しており、2024年度は54.2%を占めています。
◆生涯学習センターの休館により、生涯学習センターの施設使用料は3,955千円減少しましたが、近隣で実施している町田第一中学校の地域利用の利用率が2023年度比で14.8ポイント増加し44.2%となり、町田第一中学校の施設使用料は145千円増加しました。

③2024年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

- ◆「町田市生涯学習センター運営見直し実行計画」に基づき、引き続き事業及び管理運営体制の見直しを進める必要があります。
- ◆効果的・効率的な施設運営に向け、窓口業務の委託化など、民間活力の導入範囲を拡大する必要があります。
- ◆市民の学習機会を充実させるため、講座のデジタル化の推進や、より多くの市民が学習情報を得やすい環境整備をする必要があります。
- ◆市民が生涯学習センターで学習活動を再開できるよう、計画的な広報周知を行う必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆施設改修後の利用増加に向け、広報周知活動を行います。 ◆2026年度民間活力の導入に向けた準備を進めます。 ◆講座のデジタル化及び市内の公共施設等での講座開催を推進します。	◆「町田市生涯学習センター運営見直し実行計画」に基づき、事業運営及び管理運営体制の見直しを進めます。 ◆見直しを行ったものから、新たな事業運営及び管理運営体制での運用を開始します。

2024年度 課別行政評価シート

部名	生涯学習部	課名	図書館	歳出目名	図書館費
				事業類型	a.施設所管型

1.組織概要

組織の使命	市民がライフステージに応じ必要となる知識・情報等を「いつでも・どこでも・だれでも」自由に手に入れることができる環境を整備して、市民の知的で心豊かな生活の実現に寄与します。	他自治体の取り組み等	◆セルフ貸出などの非接触型のサービスを可能とするICタグを導入しているのは多摩26市中15市あります。町田市立図書館はこのシステムを2014年度のシステム更改から導入しています。 ◆マイナンバーカードを活用し、来館せずに利用者登録・更新を可能とする図書館システムを2025年3月に導入しました。これは多摩26市で初の取り組みです。
所管事務	◆図書館資料の収集、整理、閲覧、貸出しに関すること ◆市外図書館との図書資料の相互貸借に関すること ◆図書館運営の企画、調査、研究及び統計に関すること ◆読書普及を目的とした各種行事に関すること ◆移動図書館の運営に関すること及び図書館の維持管理に関すること ◆地域文庫等関係団体の育成援助、図書館活動に係わるボランティアの育成に関すること ◆町田市立図書館協議会に関すること		

2.2023年度末の総括と2024年度末の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆「町田市教育プラン24-28」に掲げた、子ども・若者の読書活動の推進、多様な図書館サービスの提供、図書館再編と運営体制の構築などの取組の展開が必要です。◆2025年度に鶴川図書館を民設民営の図書コミュニティ施設に転換するための準備として、運営団体への支援が必要です。
◆若者から提案されたイベントの実現に向けて、必要なサポートを行います。◆電子書籍サービスにつきましては引き続き利用促進に取り組む必要があります。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み(1~2年)		中長期的な取り組み(3~5年)	
◆鶴川図書館を図書コミュニティ施設へ転換する準備を進めます。◆若者からの提案による図書館でのイベントの実現に向けて取り組みます。◆電子書籍サービスは学校との連携、および各種利用促進事業を継続します。◆図書館システム更改を実施し、利用者の利便性を高めます。		◆「町田市教育プラン24-28」に掲げた、子ども・若者の読書活動の推進、多様な図書館サービスの提供、図書館再編と運営体制の構築などの取組を推進します。◆さるびあ図書館と中央図書館の集約方法の決定に向けて、地域との意見交換を進めます。	
取組状況	◎	◎ 2025年度から始まるつるかわ図書コミュニティ施設開設に向けた準備を完了させました。	
	◎	◎ 高校生・大学生を中心としたイベント企画運営を行う若者ボランティア(図書館プランナー)が企画したイベントを5件実施しました。	
	◎	◎ 図書館システム更改を行い、マイナンバーカードを活用し来館せず登録・更新を可能とし、図書館利用の利便性を高めました。	

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
貸出点数	点	目標	4,086,000	4,086,000	4,086,000	4,086,000	4,086,000	1年間に貸出した図書資料の延べ点数(視聴覚資料を含む)(電子書籍は含まない)
		実績	3,169,888	3,029,503	2,748,586		(2025年度)	
蔵書回転率	回	目標	3.30	3.30	3.30	3.30	3.30	貸出点数を蔵書数で除したものの(蔵書1点につき年間何回貸出されたかを示す数値)(電子書籍は含まない)
		実績	2.58	2.49	2.27		(2025年度)	
来館者数	人	目標	2,100,000	2,100,000	2,100,000	2,100,000	2,100,000	1年間に来館した利用者の延べ人数
		実績	1,689,005	1,746,412	1,811,192		(2025年度)	

②成果指標およびその他成果の説明

◆システム更改に伴う約1ヶ月間の休館の影響もあり、2023年度よりも貸出点数は280,917点減少しましたが、来館者数は64,780人増加しました。◆2025年3月図書館システム更改を行い、マイナンバーカードを活用し来館せず登録・更新が可能となり利用者の利便性を高めました。◆つるかわ図書コミュニティ施設について利用者との意見交換、施設の愛称募集、コミュニティスペースの運営開始などを実施し施設の開設準備を完了させました。◆図書館プランナーが定期的に会議を開催し、「図書みくじ」など5件のイベントを企画・実施しました。◆図書館以外の予約受渡し施設での貸出数は6施設で2023年度よりも2,363点増加し69,871点の貸出がありました。◆電子書籍サービスは2023年度よりも14,815点増加し119,112点の貸出がありました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目		2022年度	2023年度	2024年度	差額	勘定科目		2022年度	2023年度	2024年度	差額
			A	B	B-A				A	B	B-A
行政費用	人件費	693,605	715,716	791,444	75,728	行政収入	地方税	0	0	0	0
	うち時間外勤務手当	12,756	15,300	16,643	1,343		保険料	0	0	0	0
	物件費	423,500	399,918	522,674	122,756		国庫支出金	0	1,290	30,450	29,160
	うち委託料	203,213	206,459	332,389	125,930		都支支出金	13,519	15,069	15,606	537
	維持補修費	9,583	11,906	41,950	30,044		分担金及負担金	0	0	0	0
	扶助費	0	0	0	0		使用料及手数料	11	11	0	△ 11
	補助費等	55,264	54,451	54,815	364		その他	2,449	2,289	5,225	2,936
	減価償却費	48,056	40,744	40,744	0		行政収入 小計(a)	15,979	18,659	51,281	32,622
	不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0		行政収支差額(a)-(b)=(c)	△ 1,264,236	△ 1,316,836	△ 1,520,810	△ 203,974
	賞与・退職手当引当金繰入額	50,207	112,760	120,464	7,704		分担金差額(d)	0	0	0	0
	行政費用 小計(b)	1,280,215	1,335,495	1,572,091	236,596		通常収支差額(c)+(d)=(e)	△ 1,264,236	△ 1,316,836	△ 1,520,810	△ 203,974
	特別費用(g)	35,629	62,537	79,386	16,849		特別収入(f)	9,322	1,301	12,165	10,864
特別収支差額(f)-(g)=(h)		△ 26,307	△ 61,236	△ 67,221	△ 5,985	当期収支差額(e)+(h)		△ 1,290,543	△ 1,378,072	△ 1,588,031	△ 209,959

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	物件費
決算額の主な内訳	会計年度業務職員 388,137千円 常勤職員 356,400千円 再任用職員 27,820千円 会計年度補助職員 18,709千円 など	旧図書館システム使用料 113,344千円 鶴川駅前図書館指定管理委託料 112,389千円 新図書館システム導入委託料 108,468千円 中央図書館施設運営補助業務委託料 42,860千円 など
主な増減理由	システム更改に伴う人員増等職員構成の変動などにより、75,728千円増加。	電子書籍コンテンツ貸借料11,385千円などが減少した一方、新図書館システム導入委託料などの増加により、122,756千円増加。
勘定科目	維持補修費	国庫支出金
決算額の主な内訳	金森図書館照明改修工事 28,323千円 鶴川図書館空調設備改修工事 2,600千円 鶴川駅前図書館空調室外機改修工事 1,300千円 さるびあ図書館読書室照明器具取替修繕 1,300千円 など	デジタル田園都市国家構想交付金 23,086千円 物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金 7,364千円
主な増減理由	金森図書館照明改修工事の大規模工事のほか、鶴川図書館空調設備改修工事やさるびあ図書館読書室照明器具取替修繕などにより、30,044千円増加。	電気料金を対象とした物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金の増加と、システム更改及び地域資料デジタル化で活用したデジタル田園都市国家構想交付金の増加により、29,160千円増加。

③貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目			2023年度末 A	2024年度末 B	差額 B-A	勘定科目			2023年度末 A	2024年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金		0	0	0	流動負債			70,111	76,936	6,825
	不納欠損引当金		0	0	0	還付未済金			0	0	0
	その他の流動資産		0	0	0	地方債			0	0	0
固定資産	事業用資産	有形固定資産	893,933	854,120	△ 39,813	賞与引当金			70,111	76,936	6,825
		土地	343,044	343,044	0	その他の流動負債			0	0	0
		建物(取得価額)	1,644,891	1,644,891	0	固定負債			361,686	398,954	37,268
		建物減価償却累計額	△ 1,094,002	△ 1,133,815	△ 39,813	地方債			0	25,000	25,000
		工作物(取得価額)	0	0	0	退職手当引当金			361,686	373,954	12,268
		工作物減価償却累計額	0	0	0	その他の固定負債			0	0	0
	インフラ資産	無形固定資産	0	0	0	負債の部合計			431,797	475,890	44,093
		有形固定資産	0	0	0	純資産			2,733,293	2,632,702	△ 100,591
		土地	0	0	0						
		工作物(取得価額)	0	0	0						
		工作物減価償却累計額	0	0	0						
		無形固定資産	0	0	0						
建設仮勘定		0	0	0							
その他の固定資産		2,271,157	2,254,472	△ 16,685	純資産の部合計			2,733,293	2,632,702	△ 100,591	
資産の部合計			3,165,090	3,108,592	△ 56,498	負債及び純資産の部合計			3,165,090	3,108,592	△ 56,498

④貸借対照表の特徴的事項

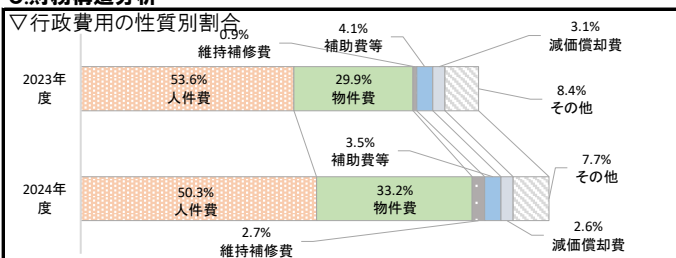
勘定科目	土地(事業用資産)	建物(事業用資産)	その他の固定資産
決算額の主な内訳	中央図書館 262,513千円(区分所有持分100万分の273,298) さるびあ図書館 80,531千円	中央図書館 1,402,817千円 さるびあ図書館 130,612千円 木曾山崎図書館 111,462千円	図書資産 2,243,286千円 出資金(エルム・スリー管理(株)) 6,600千円 忠生図書館書架等備品 4,586千円
主な増減理由	増減なし	減価償却により、39,813千円減少。	購入・寄贈・除籍などにより、図書資産が15,754千円減少。減価償却により、忠生図書館書架等備品が931千円減少。

⑤キャッシュ・フロー収支差額集計表

(単位:千円)

勘定科目	金額	勘定科目	金額	勘定科目	金額
行政サービス活動収入	49,982	社会資本整備等投資活動収入	0	財務活動収入	25,000
行政サービス活動支出	1,512,254	社会資本整備等投資活動支出	36,372	財務活動支出	0
行政サービス活動収支差額(a)	△ 1,462,272	社会資本整備等投資活動収支差額(b)	△ 36,372	財務活動収支差額(c)	25,000
			収支差額 合計 (a)+(b)+(c)		△ 1,473,644
			一般財源充当調整額		1,473,644

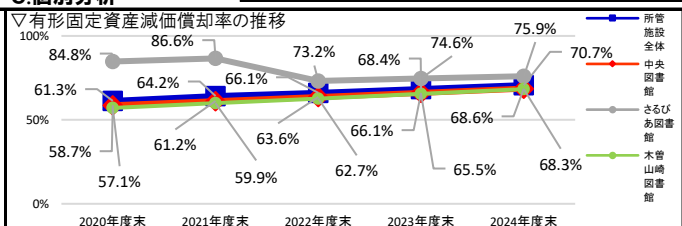
5.財務構造分析



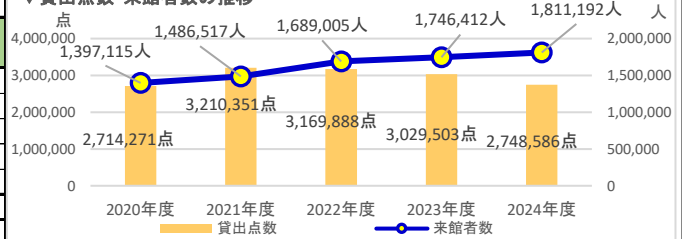
▽事業に関わる人員 (単位:人)

業務内容	常勤	再任用(フルタイム)	再任用(短時間)	会計年度(業務)	会計年度(補助)	2024合計	2023合計
図書館管理事務	9.3	0.1	0.1	1.5	0.1	11.1	8.8
各館庶務事務	12.3	0.4	0.8	3.2	1.7	18.4	16.2
企画運営事務	11.6	0.1	0.3	5.8		17.8	17.9
資料貸出・閲覧業務	12.5	3.4	0.8	69.7	7.3	93.7	94.9
利用援助・普及事業	2.3			8.9		11.2	12.3
2024年度 歳出目 合計	48.0	4.0	2.0	89.1	9.1	152.2	150.1
2023年度 歳出目 合計	45.0	7.0	0.0	90.5	7.6	150.1	

6.個別分析



▽貸出点数・来館者数の推移



7.総括

①財務情報・非財務情報に基づく有効性の分析

◆外国語の絵本・児童書を109点購入し、その蔵書数は約8,400点になり、一方貸出点数は775点減少し、16,325点となりました。◆小・中学生の創造的思考力を育むため、デジタルツールを使って自分が興味をもったものを仲間と一緒に作る創作体験講座を開催し17人の参加がありました。◆読み聞かせに関わる活動をしている保護者やボランティアを対象とした絵本の読み聞かせ講座(基礎編2回29人参加、実践編1回12人参加)を開催しました。◆おはなし会ボランティア養成講座(全3回、修了者14人)、障がい者サービスボランティア向け講座(1回9人参加)を開催しました。

②財務情報・非財務情報に基づく効率性の分析

◆国庫支出金は、物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金とデジタル田園都市国家構想交付金の増加により、2023年度よりも29,160千円増加しました。◆デジタル田園都市国家構想交付金を活用して、マイナンバーカードを利用したオンラインでの利用登録・更新を可能とする図書館システムの導入及び地域資料のデジタル化を行いました。◆東京都の補助金「子ども・長寿・居場所包括補助事業費補助金」の3年間の交付期間が終了して15,069千円が減少した一方、市町村総合交付金15,606千円を、つるかわ図書コミュニティ施設運営支援委託や金森図書館照明改修工事などに充当しました。

③2024年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

◆「町田市教育プラン24-28」に掲げた、子ども・若者の読書活動の推進、多様な図書館サービスの提供、図書館再編と運営体制の構築などの取組の展開が必要です。◆電子書籍サービスの認知度はまだ低いと考えられるため、利用促進に向けた取り組みが必要です。◆非来館で登録・更新可能など新図書館システムの機能についてもPRを行い、新規利用者の増加に向けた取り組みが必要です。◆2025年度から始まるつるかわ図書コミュニティ施設運営団体の支援が必要です。◆若者から提案されたイベントの実現に向けたサポートが必要です。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆学校連携を継続し電子書籍サービスの利用促進や新図書館システム機能をPRし新規利用の増加を目指します。◆つるかわ図書コミュニティ施設の運営支援を継続します。◆図書館プランナーによるイベントの実現を推進します。◆地域意見を踏まえ、さるびあ図書館の機能再編方法を決定します。	◆「町田市教育プラン24-28」に掲げた、子ども・若者の読書活動の推進、多様な図書館サービスの提供、図書館再編と運営体制の構築などの取組を推進します。

2024年度 事業別行政評価シート

部名		生涯学習部	主管課名	図書館
歳出目名	図書館費	特定事業名	中央図書館事業	事業類型
		2:施設運営型		

1.事業概要

事業目的	市民がライフステージに応じ必要となる知識・情報等を「いつでも・どこでも・だれでも」自由に手に入れることができる環境を整備して、市民の知的で心豊かな生活の実現に寄与します。					
基本情報	根拠法令等 図書館法、町田市立図書館条例、町田市立図書館条例施行規則					
		2022年度	2023年度	2024年度	施設の名称	町田市立中央図書館
	蔵書数(視聴覚資料含む)	580,278点	581,259点	584,142点	建設年月日	1990年4月16日
	予約・リクエスト件数	157,344件	134,937件	128,250件		
	貸出者数	295,924人	281,263人	264,858人	有形固定資産減価償却率	2022年度 63.6% 2023年度 66.1% 2024年度 68.6%

2. 2023年度末の総括と2024年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆「町田市教育プラン24-28」に掲げた、子ども・若者の読書活動の推進、多様な図書館サービスの提供、図書館再編と運営体制の構築などの取組の展開が必要です。
- ◆若者から提案されたイベントの実現に向けて、必要なサポートを行います。
- ◆電子書籍サービスにつきましては引き続き利用促進に取り組む必要があります。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み(1~2年)		中長期的な取り組み(3~5年)	
◆若者からの提案を実現できるよう、中央図書館でのバックアップに取り組めます。◆電子書籍サービスの利用促進のためさらなるPRIに取り組むとともに、学校との連携を継続し、児童・生徒の読書活動の支援を行います。◆消防設備点検結果を活用し、防火シャッターや排煙口改修工事など修繕を行います。		◆「町田市教育プラン24-28」に掲げた、子ども・若者の読書活動の推進、多様な図書館サービスの提供、図書館再編と運営体制の構築などの取組を推進します。 ◆安心・安全に利用していただくために、老朽化が進む中央図書館の修繕を計画的に行い、施設の安全管理に努めます。	
取組状況	◎	◎ 高校生・大学生を中心とした図書館プランナーが企画したイベントを、5件実施しました。	
	◎	◎ 電子書籍サービスは各種イベント等図書館以外の場所でもPRすることで、2023年度より14,815点増加し119,112点の貸出がありました。	
	○	○ 図書館の活用方法を知ってもらうための講座や体験等のイベントを開催し、185人の参加がありました。	

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
貸出点数	点	目標	1,138,000	1,138,000	1,138,000	1,138,000		1年間に貸出した図書資料の延べ点数(視聴覚資料を含む、電子書籍は含まない)
		実績	848,298	809,106	762,815		(2025年度)	
来館者数	人	目標	612,000	612,000	612,000	612,000		1年間に来館した利用者の延べ人数
		実績	526,063	546,529	538,159		(2025年度)	

②成果指標およびその他成果の説明

◆システム更改による休館の影響もあり2023年度と比較して来館者数は8,370人減少しましたが、月平均では増加しています。◆英語図書の活用や英語多読の周知のため、2回開催した英語多読講演会に29人、保護者向け(親子で参加)英語絵本読み聞かせ講座に13組の参加がありました。◆小・中学生の創造的思考力を育むため、デジタルツールを使った創作体験講座を開催し17人の参加がありました。◆図書館プランナーが企画したイベントを5件実施し、16人の参加がありました。◆中高生向けグループ学習室「わいわいキャレール」は延べ290組724人が利用しました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目		2022年度	2023年度 A	2024年度 B	差額 B-A	勘定科目		2022年度	2023年度 A	2024年度 B	差額 B-A
行政費用	人件費	331,027	343,202	384,444	41,242	行政収入	地方税	0	0	0	0
	物件費	162,562	134,109	174,597	40,488		国庫支出金	0	1,290	9,927	8,637
	うち委託料	58,705	58,038	101,290	43,252		都支支出金	8,520	8,963	12,180	3,217
	維持補修費	5,026	9,657	3,774	△ 5,883		分担金及負担金	0	0	0	0
	扶助費	0	0	0	0		使用料及手数料	0	0	0	0
	補助費等	54,984	54,172	54,543	371		その他	1,605	1,394	4,188	2,794
	減価償却費	34,830	34,830	34,830	0		行政収入 小計(a)	10,125	11,647	26,295	14,648
	不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0		行政収支差額(a)-(b)=(c)	△ 640,897	△ 615,379	△ 705,553	△ 90,174
	賞与・退職手当引当金繰入額	62,593	51,056	79,660	28,604		金融収支差額(d)	0	0	0	0
	行政費用 小計(b)	651,022	627,026	731,848	104,822		通常収支差額(c)+(d)=(e)	△ 640,897	△ 615,379	△ 705,553	△ 90,174
	特別費用(g)	17,641	16,159	22,175	6,016		特別収入(f)	0	0	0	0
	特別収支差額(f)-(g)=(h)	△ 17,641	△ 16,159	△ 22,175	△ 6,016		当期収支差額(e)+(h)	△ 658,538	△ 631,538	△ 727,728	△ 96,190

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	物件費	維持補修費
決算額の主な内訳	中央図書館施設運営補助業務委託料 42,860千円 旧図書館システム使用料 37,743千円 新図書館システム導入委託料 29,479千円 など	監視カメラ設備修繕 1,275千円 防火シャッター中継バッテリー交換修繕 550千円 ワークルーム他照明修繕 548千円 など
主な増減理由	新図書館システム導入委託料が29,479千円増加、鶴川図書館民営化移行委託料が8,440千円増加した一方、電子書籍コンテンツ使用料が6,356千円減少したことなどにより、40,488千円増加。	集会室の空気調和設備改修工事が完了したことなどにより5,883千円減少。
勘定科目	国庫支出金	都支支出金
決算額の主な内訳	デジタル田園都市国家構想交付金 5,045千円 物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金 4,882千円	市町村総合交付金 12,180千円
主な増減理由	デジタル田園都市国家構想交付金が5,045千円増加。 電気料金などを対象とした物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金が、3,593千円増加。	市町村総合交付金が12,180千円増加。 子ども・長寿・居場所包括補助事業費補助金が8,963千円減少。

③単位当たりコスト分析

※単位当たりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位当たりコスト	対前年度	単位当たりコストの増減理由
貸出1点あたりコスト	点	2024	762,815	959	184	貸出点数が減少したことなどにより、単位あたりコストが184円増加しました。
		2023	809,106	775	8	
		2022	848,298	767	136	
床面積1㎡あたりコスト	㎡	2024	5,968	122,629	17,564	維持補修費は減少した一方、物件費などが増加したことにより、単位あたりコストが17,564円増加しました。
		2023	5,968	105,065	△ 4,020	
		2022	5,968	109,085	17,807	

④貸借対照表

(単位:千円)

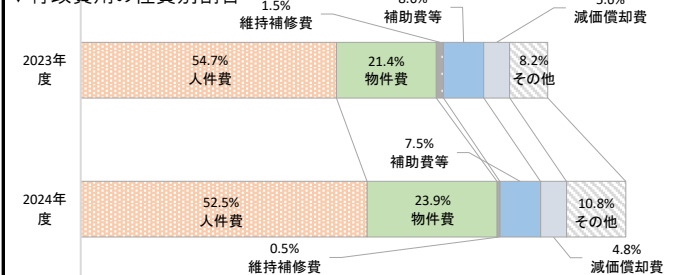
勘定科目			2023年度末 A	2024年度末 B	差額 B-A	勘定科目			2023年度末 A	2024年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金		0	0	0	流動負債		33,765	38,728	4,963	
	不納欠損引当金		0	0	0	還付未済金		0	0	0	
	その他の流動資産		0	0	0	地方債		0	0	0	
						賞与引当金		33,765	38,728	4,963	
固定資産	事業用資産	有形固定資産	739,599	704,769	△ 34,830	その他の流動負債		0	0	0	
		土地	262,513	262,513	0	固定負債		205,437	227,364	21,927	
		建物(取得価額)	1,402,817	1,402,817	0	地方債		0	0	0	
		建物減価償却累計額	△ 925,731	△ 960,561	△ 34,830	退職手当引当金		205,437	227,364	21,927	
		工作物(取得価額)	0	0	0	その他の固定負債		0	0	0	
		工作物減価償却累計額	0	0	0	負債の部合計		239,202	266,092	26,890	
	インフラ資産	無形固定資産	0	0	0	純資産		1,828,935	1,770,512	△ 58,423	
		有形固定資産	0	0	0						
		土地	0	0	0						
		工作物(取得価額)	0	0	0						
		工作物減価償却累計額	0	0	0						
建設仮勘定	無形固定資産	0	0	0							
		0	0	0							
	その他の固定資産	1,328,538	1,331,835	3,297	純資産の部合計		1,828,935	1,770,512	△ 58,423		
資産の部合計			2,068,137	2,036,604	△ 31,533	負債及び純資産の部合計			2,068,137	2,036,604	△ 31,533

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	土地(事業用資産)	建物(事業用資産)	その他の固定資産
決算額の主な内訳	中央図書館 262,513千円(区分所有持分100万分の273,398)	中央図書館 1,402,817千円(専有部分建物面積合計5,262.05㎡)	図書資産 1,325,235千円 出資金(エルム・スリー管理株)6,600千円
主な増減理由	増減なし	減価償却により、34,830千円減少。	購入21,056千円、寄贈4,416千円、除籍△20,666千円などにより、図書資産が3,297千円増加。

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



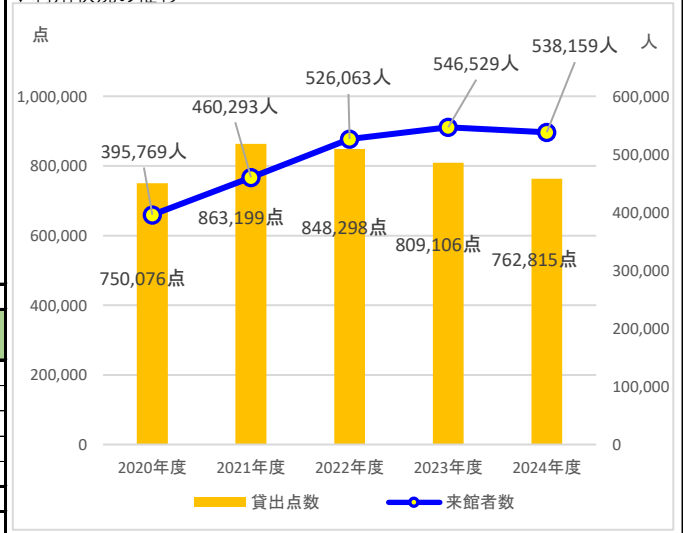
▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容		常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2024 合計	2023 合計
内訳	図書館管理事務	7.1		0.1	0.3	0.1	7.6	6.6
	各館庶務事務	5.1		0.6	2.1	1.7	9.5	8.6
	企画運営事務	8.2		0.3	3.2		11.7	12.1
	資料貸出・閲覧業務	5.3			25.6	0.7	31.6	32.6
	利用援助・普及事業	2.1			3.4		5.5	5.7
	2024年度 特定事業 合計	27.8	0.0	1.0	34.6	2.5	65.9	65.6
	2023年度 特定事業 合計	25.5	2.9	0.0	35.2	2.0	65.6	

6.個別分析

▽利用状況の推移



7.総括

①財務情報・非財務情報に基づく有効性の分析

◆おはなし会は延べ77回835人の参加がありました。夏休みイベント子ども向けクイズ「まちクエキッズ」は全問正解者79人でした。中学生から大学生向けの「一日図書館員」は延べ4回13人の参加がありました。「本のおたのしみぶくろ」は258袋773冊の貸出しがありました。◆こども映画会の参加者は155人、青少年映画会「Yシネマ」は64人、通常の映画会は全28回2,047人になりました。◆障がい者サービスのPRのため、マルチメディアDAISY上映会やリーディングトラック作り、点字体験会などを行いました。◆機器類を持たない方が電子書籍サービス等を利用できるようにタブレット端末を用意し、88回貸出を行いました。◆第1号から掲載してある『広報まちだ縮刷版』等の地域資料98点、『まちだガイド』等の地図7点をデジタル化して電子書籍サイトに公開しました。

②財務情報・非財務情報に基づく効率性の分析

◆人件費は、職員構成の変動などにより41,242千円増加しました。◆物件費は、新図書館システム導入委託料の増加などにより40,488千円増加しました。◆維持補修費は、空調調和設備改修工事が完了したことなどにより5,883千円減少しました。◆国庫支出金は、デジタル田園都市国家構想交付金の増加などにより8,637千円増加しました。◆都支出金は、市町村総合交付金の増加などにより3,217千円増加しました。◆その他行政収入は、ふるさと納税の増加などにより2,794千円増加しました。◆財源確保のため2025年2月から自動販売機を設置し、行政財産貸付料と売上分配金あわせて69千円の収入がありました。

③2024年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

◆「町田市教育プラン24-28」に掲げた、子ども・若者の読書活動の推進、多様な図書館サービスの提供、図書館再編と運営体制の構築などの取組の展開が必要です。
◆電子書籍サービスの認知度はまだ低いと考えられるため、利用促進に向けた取り組みが必要です。
◆非来館で登録・更新可能な新図書館システムの機能についてPRし、新規利用者を増加させます。
◆若者から提案されたイベントの実現に向けて、サポートを行う必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆電子書籍サービスの利用促進のためさらなるPRに取り組みとともに、学校との連携を継続します。◆新図書館システムになり来館せず利用者登録ができること、電子書籍サービスが利用できることをPRし、新規利用者を増加させます。◆若者からの提案を実現できるよう、中央図書館でのバックアップに取り組めます。	◆「町田市教育プラン24-28」に掲げた、子ども・若者の読書活動の推進、多様な図書館サービスの提供、図書館再編と運営体制の構築などの取組を推進します。◆安心・安全に利用していただくために、老朽化が進む中央図書館の修繕を計画的に行い、施設の安全管理に努めます。

2024年度 事業別行政評価シート

部名		生涯学習部	主管課名	図書館
歳出目名	図書館費	特定事業名	さるびあ図書館事業	事業類型
		2:施設運営型		

1.事業概要

事業目的	市民がライフステージに応じ必要となる知識・情報等を「いつでも・どこでも・だれでも」自由に手に入れることができる環境を整備して、市民の知的で心豊かな生活の実現に寄与します。					
基本情報	根拠法令等 図書館法、町田市立図書館条例、町田市立図書館条例施行規則					
		2022年度	2023年度	2024年度	施設の名称	町田市立さるびあ図書館
	蔵書数	132,716点	130,637点	127,123点	建設年月日	1972年5月22日
	予約・リクエスト数	90,640件	85,435件	79,379件		
	貸出者数	88,446人	84,442人	77,030人	有形固定資産減価償却率	2022年度 73.2% 2023年度 74.6% 2024年度 75.9%

2. 2023年度末の総括と2024年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆「町田市教育プラン24-28」に掲げた、子ども・若者の読書活動の推進、多様な図書館サービスの提供、図書館再編と運営体制の構築などの取組の展開が必要です。◆移動図書館については、移動図書館巡回場所見直し基本方針に基づいて出張運行先の拡大や、定期巡回場所の運行時間等の見直しの検討が必要となります。◆さるびあ図書館と中央図書館の集約方法の決定に向けて、幅広い世代の利用者等との意見交換が必要となります。◆学校図書館支援貸出について、学校図書館と連携し学校のニーズに合わせて改善に努める必要があります。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み(1~2年)		中長期的な取り組み(3~5年)	
取組状況	○	◆学校図書館と連携し、学校図書館支援貸出におけるテーマ別貸出セットの案内を進めていきます。	◆「町田市教育プラン24-28」に掲げた、子ども・若者の読書活動の推進、多様な図書館サービスの提供、図書館再編と運営体制の構築などの取組を推進します。◆適切な修繕等を行い、施設の安全管理に努めます。◆移動図書館の効率的・効果的な運行の検討を進めます。◆さるびあ図書館と中央図書館の集約方法の決定に向けて、地域との意見交換を進めます。
	○	◆子どもが本に触れる機会を増やすために、移動図書館の出張運行先の拡大を進めていきます。	
	○	○学校図書館支援貸出が利用しやすいように、テーマ別貸出セットの資料を各小・中学校に周知して利用の促進を図りました。	
		○移動図書館の出張運行については、2023年度の9か所から、2024年度は13か所に増加しました。	
		○読書室、多目的室の照明をLED照明に更新する修繕を行い、快適な読書環境の整備に努めました。	

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
貸出点数	点	目標	392,000	392,000	392,000	392,000	392,000	1年間に貸出した図書資料の延べ点数(移動図書館2台分を含む、電子書籍は含まない)
		実績	330,332	310,420	273,798		(2025年度)	
来館者数	人	目標	228,000	228,000	228,000	228,000	228,000	1年間に来館した利用者の延べ人数
		実績	126,860	141,863	140,581		(2025年度)	

②成果指標およびその他成果の説明

◆システム更改による休館の影響から、貸出点数・来館者数は目標値には至らず2023年度と比較して貸出点数、来館者数が共に減少しました。◆移動図書館2台が3か所のサービスステーションを2週間ごとに巡回して、図書館が近隣にない地域の利用者へのサービスを実施しました。◆移動図書館の出張運行を、芹ヶ谷公園多目的広場(せりがや冒険遊び場前)や幼稚園・保育園など73回出向き、貸出や読み聞かせ等を行いました。◆学校図書館支援貸出については、2023年度と比較して472冊増えて2,660冊の利用がありました。◆読書室、多目的室の照明をLED照明に更新しました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目		2022年度	2023年度	2024年度	差額	勘定科目		2022年度	2023年度	2024年度	差額
			A	B	B-A				A	B	B-A
行政費用	人件費	93,714	96,633	103,561	6,928	行政収入	地方税	0	0	0	0
	物件費	26,283	27,182	50,027	22,845		国庫支出金	0	0	8,470	8,470
	うち委託料	6,800	7,098	30,091	22,993		都支支出金	1,456	1,654	0	△ 1,654
	維持補修費	1,115	20	1,524	1,504		分担金及負担金	0	0	0	0
	扶助費	0	0	0	0		使用料及手数料	11	11	0	△ 11
	補助費等	20	18	17	△ 1		その他	200	225	215	△ 10
	減価償却費	367	1,806	1,806	0		行政収入 小計(a)	1,667	1,890	8,685	6,795
	不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0		行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 127,213	△ 136,720	△ 158,675	△ 21,955
	賞与・退職手当引当金繰入額	7,381	12,951	10,425	△ 2,526		金融収支差額 (d)	0	0	0	0
	行政費用 小計 (b)	128,880	138,610	167,360	28,750		通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 127,213	△ 136,720	△ 158,675	△ 21,955
	特別費用 (g)	3,612	7,413	10,854	3,441		特別収入 (f)	0	374	1,724	1,350
	特別収支差額 (f)-(g)=(h)	△ 3,612	△ 7,039	△ 9,130	△ 2,091		当期収支差額 (e)+(h)	△ 130,825	△ 143,759	△ 167,805	△ 24,046

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	物件費
決算額の主な内訳	会計年度任用職員 56,388千円 常勤職員 37,112千円 再任用職員 10,020千円 など	新図書館システム導入委託料 20,333千円 旧図書館システム使用料 10,516千円 光熱水費 5,434千円 など
主な増減理由	職員構成の変動などにより、6,928千円増加。	新図書館システム導入委託料の増加などにより、22,845千円増加。
勘定科目	維持補修費	国庫支出金
決算額の主な内訳	読書室照明器具取替修繕 1,300千円 消防設備修繕 88千円 事務室照明器具修繕 75千円 など	デジタル田園都市国家構想交付金 7,016千円 物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金 1,454千円
主な増減理由	読書室照明器具取替修繕などにより、1,504千円増加。	デジタル田園都市国家構想交付金などにより、8,470千円増加。

③単位当たりコスト分析

※単位当たりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位当たりコスト	対前年度	単位当たりコストの増減理由
貸出1点あたりコスト	点	2024	273,798	611	164	貸出点数が減少したことなどにより、単位あたりのコストが164円増加しました。
		2023	310,420	447	57	
		2022	330,332	390	23	
床面積1㎡あたりコスト	㎡	2024	1,318	126,980	21,813	物件費が増加したことなどにより、単位あたりのコストが21,813円増加しました。
		2023	1,318	105,167	7,382	
		2022	1,318	97,785	4,844	

④貸借対照表

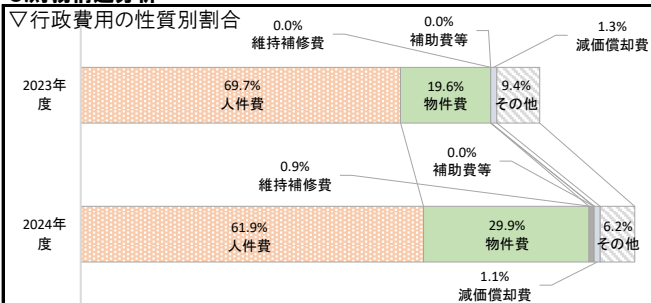
(単位:千円)

勘定科目				2023年度末 A	2024年度末 B	差額 B-A	勘定科目				2023年度末 A	2024年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金			0	0	0	流動負債			8,890	9,385	495	
	不納欠損引当金			0	0	0	還付未済金			0	0	0	
	その他の流動資産			0	0	0	地方債			0	0	0	
							賞与引当金			8,890	9,385	495	
固定資産	事業用資産	有形固定資産			115,238	113,432	△ 1,806	その他の流動負債			0	0	0
		土地			80,530	80,530	0	固定負債			42,317	40,013	△ 2,304
		建物(取得価額)			130,612	130,612	0	地方債			0	0	0
		建物減価償却累計額			△ 95,904	△ 97,710	△ 1,806	退職手当引当金			42,317	40,013	△ 2,304
		工作物(取得価額)			0	0	0	その他の固定負債			0	0	0
		工作物減価償却累計額			0	0	0	負債の部合計			51,207	49,398	△ 1,809
	インフラ資産	無形固定資産			0	0	0	純資産			281,031	277,522	△ 3,509
		有形固定資産			0	0	0						
		土地			0	0	0						
		工作物(取得価額)			0	0	0						
		工作物減価償却累計額			0	0	0						
		無形固定資産			0	0	0						
	建設仮勘定			0	0	0							
その他の固定資産			217,000	213,488	△ 3,512	純資産の部合計			281,031	277,522	△ 3,509		
資産の部合計			332,238	326,920	△ 5,318	負債及び純資産の部合計			332,238	326,920	△ 5,318		

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	土地(事業用資産)	建物(事業用資産)	その他の固定資産
決算額の主な内訳	さるびあ図書館 80,530千円	さるびあ図書館 130,612千円	図書資産 213,488千円
主な増減理由	増減なし	減価償却により、1,806千円減少。	購入2,966千円、寄贈2,652千円、除籍△10,854千円などにより、図書資産が3,512千円減少。

5.財務構造分析



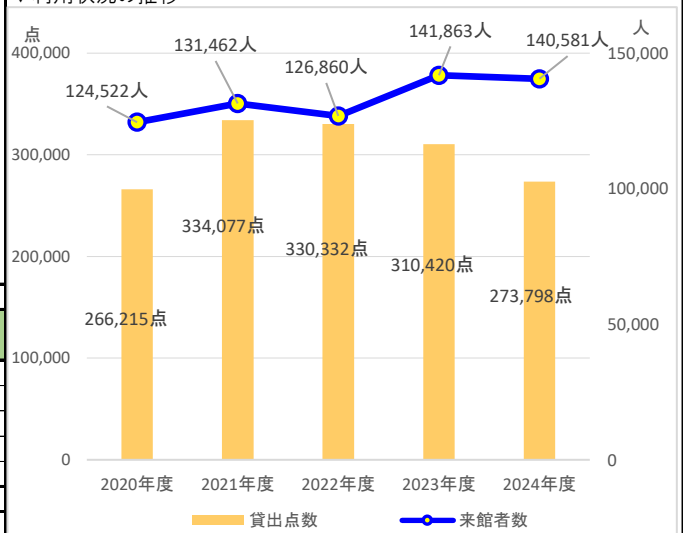
▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2024 合計	2023 合計
図書館管理事務	0.8			0.1		0.9	0.7
各館庶務事務	1.0	0.1				1.1	1.1
企画運営事務	0.7			0.3		1.0	1.0
資料貸出・閲覧事務	2.5	1.9		11.0	1.2	16.6	16.8
利用援助・普及事業				1.0		1.0	1.1
2024年度 特定事業 合計	5.0	2.0	0.0	12.4	1.2	20.6	20.7
2023年度 特定事業 合計	5.0	2.0	0.0	12.5	1.2	20.7	

6.個別分析

▽利用状況の推移



7.総括

①財務情報・非財務情報に基づく有効性の分析

◆システムの更改に伴い、約1ヶ月の休館がありました。2023年度と比較して来館者数は1,282人の減少にとどまりました。◆10月の「小山田桜台団地PLAY DAY! 2024」、11月の「バイエネ君でさんあーるまつり」など移動図書館のイベント運行を4回行いました。イベント運行4回の合計は延べ数で来場者数430人、貸出数63点、おはなし会参加者数165人でした。◆学校図書館支援貸出として、小・中学校へテーマ別貸出セットも含めて資料2,660点を貸出・配本しました。◆読書室と多目的室の照明をLED照明に更新する修繕を行い、利用者が快適に過ごせる環境を整備しました。◆システム更改に合わせてセルフ予約受取コーナーを新設し、利用者の利便性の向上を図りました。

②財務情報・非財務情報に基づく効率性の分析

◆人件費は、職員構成の変動などにより6,928千円増加しました。
◆物件費は、新図書館システム導入委託料などにより、22,845千円増加しました。
◆維持補修費は、読書室照明器具取替修繕などにより、1,504千円増加しました。
◆事業に関わる人員は、ほぼ変更ありませんでした。

③2024年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

◆「町田市教育プラン24-28」に掲げた、子ども・若者の読書活動の推進、多様な図書館サービスの提供、図書館再編と運営体制の構築などの取組の展開が必要です。◆移動図書館については、移動図書館巡回場所見直し基本方針に基づいて出張運行先の拡大や、定期巡回場所の運行時間等の見直しの検討が必要となります。◆学校図書館支援貸出について、学校図書館と連携し学校のニーズに合わせて利用促進に取り組む必要があります。◆さるびあ図書館の中央図書館への統合に向けて、さるびあ図書館が持つ移動図書館と学校図書館支援貸出機能について再編方法の検討が必要となります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆子どもが本に触れる機会を増やすために、移動図書館の出張運行先の拡大を進めていきます。◆さるびあ図書館の中央図書館への統合に向けて、移動図書館や学校図書館支援貸出などの機能再編方法を決定します。	◆「町田市教育プラン24-28」に掲げた、子ども・若者の読書活動の推進、多様な図書館サービスの提供、図書館再編と運営体制の構築などの取組を推進します。◆適切な修繕等を行い、施設の安全管理に努めます。◆移動図書館の効率的・効果的な運行の検討を進めます。

2024年度 事業別行政評価シート

部名		生涯学習部	主管課名	図書館
歳出目名	図書館費	特定事業名	鶴川図書館事業	事業類型
		2:施設運営型		

1.事業概要

事業目的	市民がライフステージに応じ必要となる知識・情報等を「いつでも・どこでも・だれでも」自由に手に入れることができる環境を整備して、市民の知的で心豊かな生活の実現に寄与します。					
基本情報	根拠法令等 図書館法、町田市立図書館条例、町田市立図書館条例施行規則					
		2022年度	2023年度	2024年度	施設の名称	町田市立鶴川図書館
	蔵書数	44,946点	25,488点	11,624点	建設年月日	1972年2月15日
	予約・リクエスト件数	43,835件	39,001件	36,247件		
	貸出者数	49,237人	40,101人	35,045人	有形固定資産減価償却率	2022年度 2023年度 2024年度 - - -

2. 2023年度末の総括と2024年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆「町田市教育プラン24-28」に掲げた、子ども・若者の読書活動の推進、多様な図書館サービスの提供、図書館再編と運営体制の構築などの取組の展開が必要です。◆図書コミュニティ施設への転換に向けて運営団体への支援が必要です。
◆地域のコミュニティづくりを進めるため、鶴川団地商店街のイベント等への積極的な参加や、コミュニティスペースを活用した読み聞かせなどの実施、地域の方々との会話のきっかけづくりなどに取り組み必要があります。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み(1~2年)		中長期的な取り組み(3~5年)	
◆2025年度当初の図書コミュニティ施設のオープンに向けて、運営団体の支援を進めます。 ◆地域のコミュニティ形成に協力していくため、鶴川団地商店街のイベント等に引き続き、積極的に取り組みます。		◆「町田市教育プラン24-28」に掲げた、子ども・若者の読書活動の推進、多様な図書館サービスの提供、図書館再編と運営体制の構築などの取組を推進します。	
取組状況	◎	○ 図書コミュニティ施設運営団体との定例会等を通じて、運営団体が抱える課題の確認や解消に繋がりました。	
	◎	◎ 7月と10月に地域の団体と連携したイベントを実施した他、8回のイベントを実施し地域のコミュニティ形成に協力しました。	
	◎	◎ つるかわ図書コミュニティ施設「つるぼん」の看板設置や、内装サインの作成など、施設改修を実施しました。	

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
貸出点数	点	目標	211,000	211,000	211,000	-	-	1年間に貸出した図書資料の延べ点数(電子書籍は含まない)
		実績	150,897	119,525	102,372			
来館者数	人	目標	174,000	174,000	174,000	-	-	1年間に来館した利用者の延べ人数
		実績	69,794	75,574	105,137			

②成果指標およびその他成果の説明

◆システム更改に伴う約1ヶ月間の休館の影響もあり、2023年度と比較して貸出点数は17,153点減少しましたが、新たな図書コミュニティ施設開設に向けたイベント等の積極的な周知活動により、来館者数は29,563人増加しました。◆「にんぎものをさがせ!」や「サントਾਲー」等の館内イベントを開催することで来館者の増加につなげました。◆図書コミュニティ施設への転換に向けた地域のさまざまな団体と連携したイベントを3回開催し、約300人の参加がありました。◆図書コミュニティ施設の愛称を募集し、90件以上の応募の中から950票以上の投票を経て、「つるぼん」に決定しました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目		2022年度	2023年度	2024年度	差額	勘定科目		2022年度	2023年度	2024年度	差額
			A	B	B-A				A	B	B-A
行政費用	人件費	42,856	39,957	44,638	4,681	行政収入	地方税	0	0	0	0
	物件費	13,561	13,430	14,986	1,556		国庫支出金	0	0	0	0
	うち委託料	1,983	2,166	4,052	1,886		都支支出金	813	693	656	△ 37
	維持補修費	1,496	0	2,659	2,659		分担金及負担金	0	0	0	0
	扶助費	0	0	0	0		使用料及手数料	0	0	0	0
	補助費等	167	164	163	△ 1		その他	39	34	34	0
	減価償却費	0	0	0	0		行政収入 小計(a)	852	727	690	△ 37
	不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0		行政収支差額(a)-(b)=(c)	△ 60,884	△ 56,884	△ 65,889	△ 9,005
	賞与・退職手当引当金繰入額	3,656	4,060	4,133	73		金融収支差額(d)	0	0	0	0
	行政費用 小計(b)	61,736	57,611	66,579	8,968		通常収支差額(c)+(d)=(e)	△ 60,884	△ 56,884	△ 65,889	△ 9,005
特別費用(g)		7,878	24,972	31,602	6,630	特別収入(f)		0	3,897	704	△ 3,193
特別収支差額(f)-(g)=(h)		△ 7,878	△ 21,075	△ 30,898	△ 9,823	当期収支差額(e)+(h)		△ 68,762	△ 77,959	△ 96,787	△ 18,828

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	物件費
決算額の主な内訳	会計年度任用職員 26,681千円 常勤職員 14,109千円 など	旧図書館システム使用料 6,193千円 旧図書館システム撤去料 1,784千円 光熱水費 1,058千円 など
主な増減理由	職員構成の変動などにより、4,681千円増加。	旧図書館システムの撤去料や光熱水費の増加などにより、1,556千円増加。
勘定科目	維持補修費	都支支出金
決算額の主な内訳	空調調和設備改修工事 2,600千円 床剥がれ修繕 59千円	市町村総合交付金 656千円
主な増減理由	空調調和設備改修工事などにより、2,659千円増加。	市町村総合交付金が656千円増加。 子ども・長寿・居場所包括補助事業費補助金が693千円減少。

③単位当たりコスト分析

※単位当たりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位当たりコスト	対前年度	単位当たりコストの増減理由
貸出1点あたりコスト	点	2024	102,372	650	168	貸出点数が減少したことなどにより、単位あたりコストが168円増加しました。
		2023	119,525	482	73	
		2022	150,897	409	35	
床面積1㎡あたりコスト	㎡	2024	260	256,073	34,492	人件費や維持補修費が増加したことなどにより、単位あたりコストが34,492円増加しました。
		2023	260	221,581	△ 15,865	
		2022	260	237,446	4,308	

④貸借対照表

(単位:千円)

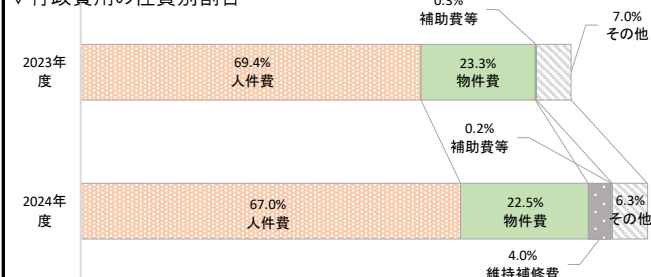
勘定科目				2023年度末 A	2024年度末 B	差額 B-A	勘定科目				2023年度末 A	2024年度末 B	差額 B-A	
流動資産	未収金		0	0	0	流動負債		4,060	4,133	73				
	不納欠損引当金		0	0	0		還付未済金		0	0	0			
	その他の流動資産		0	0	0		地方債		0	0	0			
固定資産	事業用資産	有形固定資産		0	0	0	賞与引当金		4,060	4,133	73			
		土地		0	0	0	その他の流動負債		0	0	0			
		建物(取得価額)		0	0	0	固定負債		17,723	15,706	△ 2,017			
		建物減価償却累計額		0	0	0	地方債		0	0	0			
		工作物(取得価額)		0	0	0	退職手当引当金		17,723	15,706	△ 2,017			
		工作物減価償却累計額		0	0	0	その他の固定負債		0	0	0			
	インフラ資産	無形固定資産		0	0	0	負債の部合計		21,783	19,839	△ 1,944			
		有形固定資産		0	0	0	純資産		9,325	△ 19,839	△ 29,164			
		土地		0	0	0								
		工作物(取得価額)		0	0	0								
		工作物減価償却累計額		0	0	0								
		無形固定資産		0	0	0								
		建設仮勘定		0	0	0								
その他の固定資産				31,108	0	△ 31,108	純資産の部合計		9,325	△ 19,839	△ 29,164			
資産の部合計				31,108	0	△ 31,108	負債及び純資産の部合計		31,108	0	△ 31,108			

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	その他の固定資産		
決算額の主な内訳	図書資産 0千円		特になし
主な増減理由	鶴川図書館が閉館し、除籍△31,108千円により、図書資産が31,108千円減少。		

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



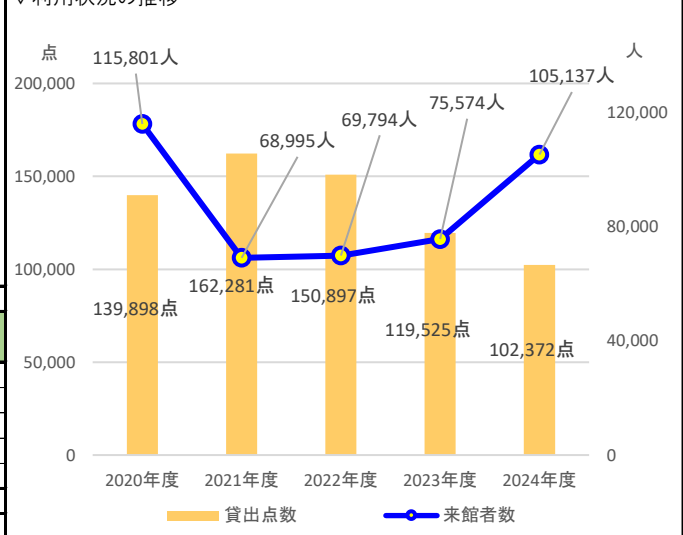
▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2024 合計	2023 合計
図書館管理事務	0.1			0.2		0.3	0.3
各館庶務事務	2.1		0.2	0.3		2.6	1.4
企画運営事務	0.4		0.1	0.4		0.9	0.7
資料貸出・閲覧業務	0.4		0.7	4.5	0.5	6.1	5.8
利用援助・普及事業				0.5		0.5	0.8
2024年度 特定事業 合計	3.0	0.0	1.0	5.9	0.5	10.4	9.0
2023年度 特定事業 合計	2.2	0.0	0.0	6.3	0.5	9.0	

6.個別分析

▽利用状況の推移



7.総括

①財務情報・非財務情報に基づく有効性の分析

◆児童を対象とした夏休みの館内イベント「にんきものをさがせ!」は291人の参加がありました。◆勉強や読書、パソコンを使つての調べものなど様々な用途で利用できる「みんなのコミュニティスペース」の運用を開始しました。◆地域のさまざまな団体と連携したイベントを7月、8月、10月に実施しました。7月開催「ともに作ろう! コミュニティの本棚。みんなのおすすめ教えて。」ではシャボン玉ショーやミステリー本探索ゲームを行いました。8月開催「地域活動のご紹介」では「未来の森(みんなの居場所)」や「まちだ福祉〇ごとサポートセンター鶴川」の紹介を行いました。10月開催「ともに知ろう! 鶴川図書館の歴史、これからの防災」では地域主催の秋祭りと連携し、防災に関する講演やグッズの展示等を行いました。

②財務情報・非財務情報に基づく効率性の分析

- ◆人件費は、職員構成の変動などにより4,681千円増加しました。
- ◆維持補修費は、エアコンの修繕などを行ったことにより2,659千円増加しました。
- ◆物件費は、旧図書館システムの撤去料などにより1,556千円増加しました。
- ◆事業に関わる人員は、再任用職員1名分増加しました。

③2024年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

- ◆「町田市教育プラン24-28」に掲げた、子ども・若者の読書活動の推進、多様な図書館サービスの提供、図書館再編と運営体制の構築などの取組の展開が必要です。
- ◆町田市立図書館の予約資料受渡しサービスを図書コミュニティ施設運営団体に委託します。
- ◆運営団体との定期的な連絡会等を通じて、つるかわ図書コミュニティ施設「つるぼん」の運営支援が必要です。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆町田市立図書館の予約資料受渡しサービスを図書コミュニティ施設運営団体に委託して実施します。 ◆つるかわ図書コミュニティ施設「つるぼん」の運営支援を継続します。 ◆建物建て替えが計画されているため、移転の支援を行います。	-

2024年度 事業別行政評価シート

2024年度 事業別行政評価シート				部名	生涯学習部	主管課名	図書館
歳出目名	図書館費	特定事業名	金森図書館事業	事業類型	2:施設運営型		

1.事業概要

事業目的	市民がライフステージに応じ必要となる知識・情報等を「いつでも・どこでも・だれでも」自由に手に入れることができる環境を整備して、市民の知的で心豊かな生活の実現に寄与します。					
基本情報	根拠法令等 図書館法、町田市立図書館条例、町田市立図書館条例施行規則					
		2022年度	2023年度	2024年度	施設の名称	町田市立金森図書館
	蔵書数	129,283点	130,379点	129,158点	建設年月日	2000年7月4日
	予約・リクエスト件数	145,456件	154,259件	139,989件		
	貸出者数	161,709人	161,651人	147,371人	有形固定資産減価償却率	2022年度 2023年度 2024年度 - - -

2. 2023年度末の総括と2024年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆「町田市教育プラン24-28」に掲げた、子ども・若者の読書活動の推進、多様な図書館サービスの提供、図書館再編と運営体制の構築などの取組の展開が必要です。◆他の機関と連携して、地域の課題解決や生活に役立つ情報を提供することが必要です。◆児童向け、シニア向けなどの魅力的なイベントを数多く実施し、さらなる来館者数の増加に向けて取り組む必要があります。◆2000年に建築された金森図書館は施設の老朽化が進んでおり、維持管理のための費用を確保する必要があります。また、適正な管理と修繕により、利用者の安全を最優先に快適な読書環境を整えていくことが必要です。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み(1~2年)		中長期的な取り組み(3~5年)	
◆他部署と連携した資料提供、特集展示を行って利用促進を図ります。		◆「町田市教育プラン24-28」に掲げた、子ども・若者の読書活動の推進、多様な図書館サービスの提供、図書館再編と運営体制の構築などの取組を推進します。	
◆児童向けイベント、シニア向けイベントなど、幅広い世代に楽しんでもいただけるような魅力的なイベントを数多く実施し、さらなる来館者数の増加に向けた取組を行います。		◆安心・安全に利用していただくために、老朽化が進む金森図書館の修繕を計画的に行い、施設の安全管理に努めます。	
◆高圧ケーブル更新修繕を行います。		◆子ども家庭支援課、和光大学と連携した特集展示「児童虐待防止推進月間」など、他部署と連携した特集コーナーを4回設置しました。	
取組状況	◎	◎ 子どものためのおはなし会など年間11件の魅力的なイベントを開催し、2023年度と比較して来館者数が44,013人増加しました。	
	個別取組	◎ 照明改修工事(全照明LED化)、高圧ケーブル更新修繕を実施し、快適な読書環境の整備、施設の安全管理に努めました。	
	◎	◎ 照明改修工事(全照明LED化)、高圧ケーブル更新修繕を実施し、快適な読書環境の整備、施設の安全管理に努めました。	

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
貸出点数	点	目標	722,000	722,000	722,000	722,000	722,000	1年間に貸出した図書資料の延べ点数(電子書籍は含まない)
		実績	587,110	588,727	539,548		(2025年度)	
来館者数	人	目標	260,000	260,000	260,000	290,000	290,000	1年間に来館した利用者の延べ人数
		実績	229,659	239,392	283,405		(2025年度)	

②成果指標およびその他成果の説明

◆システム更改に伴う約1ヶ月間の休館の影響もあり、2023年度と比較して貸出点数は49,179点減少しましたが、来館者数は44,013人増加し、目標値を上回りました。◆定期的なおはなし会に加え、大人のためのおはなし会などを開催し、2023年度はおはなし会と比較して129人増加となる684人の参加がありました。◆夏休みイベント「虫を探してみよう」を開催し、延べ647人の参加がありました。◆照明改修工事により館内照明を全てLED照明に更新しました。◆システム更改に合わせてセルフ予約受取コーナーを新設しました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目		2022年度	2023年度	2024年度	差額	勘定科目		2022年度	2023年度	2024年度	差額
			A	B	B-A				A	B	B-A
行政費用	人件費	65,189	72,627	82,152	9,525	行政収入	地方税	0	0	0	0
	物件費	32,040	34,203	53,960	19,757		国庫支出金	0	0	2,225	2,225
	うち委託料	7,447	8,727	28,545	19,818		都支支出金	594	989	1,678	689
	維持補修費	1,278	721	31,221	30,500		分担金及負担金	0	0	0	0
	扶助費	0	0	0	0		使用料及手数料	0	0	0	0
	補助費等	8	11	10	△1		その他	238	272	312	40
	減価償却費	0	0	0	0		行政収入 小計(a)	832	1,261	4,215	2,954
	不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0		行政収支差額(a)-(b)=(c)	△101,520	△123,302	△172,331	△49,029
	賞与・退職手当引当金繰入額	3,837	17,001	9,203	△7,798		金融収支差額(d)	0	0	0	0
	行政費用 小計(b)	102,352	124,563	176,546	51,983		通常収支差額(c)+(d)=(e)	△101,520	△123,302	△172,331	△49,029
特別費用(g)		2,354	5,984	7,506	1,522	特別収入(f)		5,715	359	1,843	1,484
特別収支差額(f)-(g)=(h)		3,361	△5,625	△5,663	△38	当期収支差額(e)+(h)		△98,159	△128,927	△177,994	△49,067

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	物件費
決算額の主な内訳	会計年度任用職員 55,305千円 常勤職員 21,822千円 再任用職員 5,000千円 など	新図書館システム導入委託料 20,891千円 旧図書館システム使用料 14,957千円 清掃業務委託料 2,854千円 など
主な増減理由	職員構成の変動などにより、9,525千円増加。	新図書館システム導入委託料の増加などにより、19,757千円増加。
勘定科目	維持補修費	国庫支出金
決算額の主な内訳	照明改修工事 28,323千円 高圧ケーブル更新修繕 1,276千円 2F事務室パッケージエアコン更新修繕 1,001千円 など	デジタル田園都市国家構想交付金 1,646千円 物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金 579千円
主な増減理由	照明改修工事などにより、30,500千円増加。	デジタル田園都市国家構想交付金などにより、2,225千円増加。

③単位当たりコスト分析

※単位当たりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位当たりコスト	対前年度	単位当たりコストの増減理由
貸出1点あたりコスト	点	2024	539,548	327	115	維持補修費や物件費が増加したことなどにより、単位あたりコストが115円増加しました。
		2023	588,727	212	38	
		2022	587,110	174	△6	
床面積1㎡あたりコスト	㎡	2024	1,500	117,697	34,655	維持補修費や物件費が増加したことなどにより、単位あたりコストが34,655円増加しました。
		2023	1,500	83,042	14,807	
		2022	1,500	68,235	△1,951	

④貸借対照表

(単位:千円)

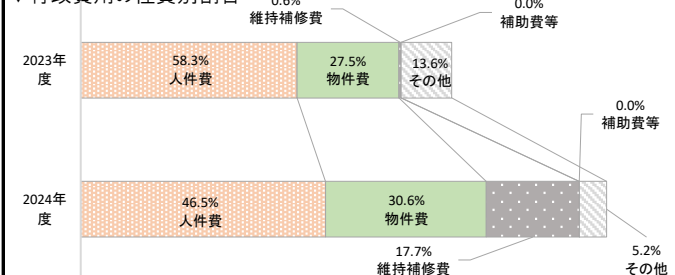
勘定科目			2023年度末 A	2024年度末 B	差額 B-A	勘定科目			2023年度末 A	2024年度末 B	差額 B-A	
流動資産	未収金		0	0	0	流動負債			6,864	7,372	508	
	不納欠損引当金		0	0	0	還付未済金			0	0	0	
	その他の流動資産		0	0	0	地方債			0	0	0	
固定資産	事業用資産	有形固定資産		0	0	賞与引当金			6,864	7,372	508	
		土地		0	0	その他の流動負債			0	0	0	
		建物(取得価額)		0	0	固定負債			25,318	50,055	24,737	
		建物減価償却累計額		0	0	地方債			0	25,000	25,000	
		工作物(取得価額)		0	0	退職手当引当金			25,318	25,055	△ 263	
		工作物減価償却累計額		0	0	その他の固定負債			0	0	0	
		無形固定資産		0	0	負債の部合計			32,182	57,427	25,245	
	インフラ資産	有形固定資産		0	0	純資産			145,072	119,807	△ 25,265	
		土地		0	0							
		工作物(取得価額)		0	0							
		工作物減価償却累計額		0	0							
		無形固定資産		0	0							
		建設仮勘定		0	0							
	その他の固定資産			177,254	177,234	△ 20	純資産の部合計			145,072	119,807	△ 25,265
資産の部合計				177,254	177,234	△ 20	負債及び純資産の部合計			177,254	177,234	△ 20

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	その他の固定資産	地方債(固定負債)	
決算額の主な内訳	図書資産 177,234千円	地方債 25,000千円	特になし
主な増減理由	購入3,309千円、寄贈2,333千円、除籍△7,506千円などにより、図書資産額が20千円減少。	照明改修工事に伴う地方債の借入により、25,000千円増加。	

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



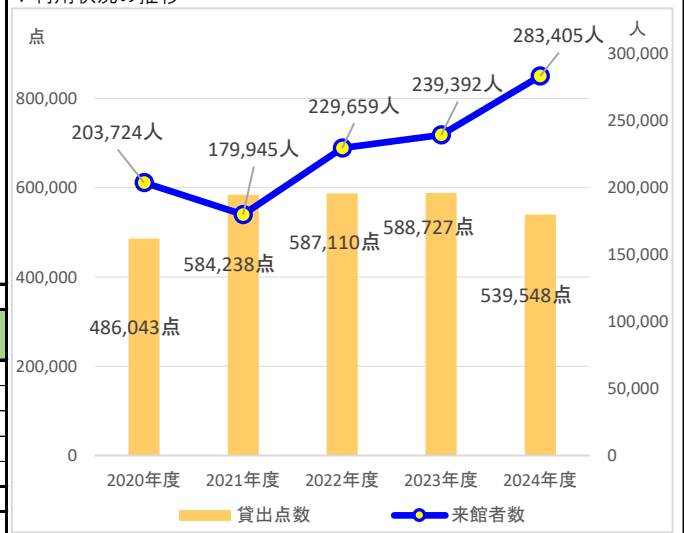
▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2024 合計	2023 合計
図書館管理事務	0.3	0.1		0.4		0.8	0.4
各館庶務事務	1.4	0.2		0.2		1.8	1.7
企画運営事務	0.3	0.1		0.6		1.0	0.7
資料貸出・閲覧事務	2.0	0.6		9.4	2.9	14.9	13.8
利用援助・普及事業				0.7		0.7	0.9
2024年度 特定事業 合計	4.0	1.0	0.0	11.3	2.9	19.2	17.5
2023年度 特定事業 合計	3.0	1.0	0.0	11.6	1.9	17.5	

6.個別分析

▽利用状況の推移



7.総括

①財務情報・非財務情報に基づく有効性の分析

- ◆毎週開催している定例おはなし会、クイズ形式の夏休みイベント「虫を探してみよう」、英字新聞で数冊の本を包むお楽しみ袋形式での本の貸出イベント「福袋week」など、年間11件の魅力的なイベントを開催することで、2023年度と比較して来館者数は44,013人増加しました。
- ◆絵本の読み聞かせ講座基礎編を開催し、14人に参加いただきました。
- ◆照明改修工事(全照明LED化)、高圧ケーブル更新修繕などにより、利用者の快適な読書環境の整備、安心・安全の向上を図りました。
- ◆システム更改に合わせてセルフ予約受取コーナーを新設し、利用者の利便性の向上を図りました。

②財務情報・非財務情報に基づく効率性の分析

- ◆人件費は、職員構成の変動などにより、9,525千円増加しました。
- ◆物件費は、新図書館システム導入委託料などにより、19,757千円増加しました。
- ◆維持補修費は、照明改修工事、高圧ケーブル更新修繕などにより、30,500千円増加しました。
- ◆事業に関わる人員は、障がい者雇用(会計年度補助職員)の取組などにより、1.7人増加しました。

③2024年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

- ◆「町田市教育プラン24-28」に掲げた、子ども・若者の読書活動の推進、多様な図書館サービスの提供、図書館再編と運営体制の構築などの取組の展開が必要です。
- ◆他の機関と連携して、地域の課題解決や生活に役立つ情報を提供することが必要です。
- ◆来館者数は増加しておりますが、引き続き、児童向け、シニア向けなどの魅力的なイベントを数多く開催し、さらなる来館者数の増加に向けて取り組む必要があります。
- ◆2000年に建築された金森図書館は施設の老朽化が進んでおり、維持管理のための費用を確保する必要があります。また、適正な管理と修繕により、利用者の安全を最優先に快適な読書環境を整えていくことが必要です。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆他部署と連携した資料提供、特集展示を行って利用促進を図ります。 ◆夏休みイベントやシニア向け事業など、幅広い世代に楽しんでいただけるような魅力的なイベントを数多く開催し、さらなる来館者数の増加に向けた取組を行います。 ◆雨漏りの原因場所を特定するための調査を実施します。	◆「町田市教育プラン24-28」に掲げた、子ども・若者の読書活動の推進、多様な図書館サービスの提供、図書館再編と運営体制の構築などの取組を推進します。 ◆安心・安全に利用していただくために、老朽化が進む金森図書館の修繕を計画的に行い、施設の安全管理に努めます。

2024年度 事業別行政評価シート

部名	生涯学習部	主管課名	図書館
歳出目名	図書館費	特定事業名	忠生図書館事業
事業類型	2:施設運営型		

1.事業概要

事業目的	市民がライフステージに応じ必要となる知識・情報等を「いつでも・どこでも・だれでも」自由に手に入れることができる環境を整備して、市民の知的で心豊かな生活の実現に寄与します。							
基本情報	根拠法令等	図書館法、町田市立図書館条例、町田市立図書館条例施行規則						
		2022年度	2023年度	2024年度	施設の名称	町田市立忠生図書館		
	蔵書数	105,195点	108,257点	111,186点	建設年月日	2015年2月27日		
	予約・リクエスト件数	66,950件	62,465件	60,783件		2022年度	2023年度	2024年度
	貸出者数	103,775人	100,443人	92,039人	有形固定資産減価償却率	92.9%	93.9%	95.0%

2. 2023年度末の総括と2024年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆「町田市教育プラン24-28」に掲げた、子ども・若者の読書活動の推進、多様な図書館サービスの提供、図書館再編と運営体制の構築などの取組の展開が必要です。◆2023年度は貸出点数、来館者数とも2022年度と比較して減少している状況のため、さらなる忠生図書館の魅力あるイベントや特集を企画し、PRが必要です。◆児童・生徒向けの事業は充実しており、シニア世代の利用や来館を促進する必要があります。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み(1~2年)				中長期的な取り組み(3~5年)			
◆町田市立図書館のホームページやX(旧Twitter)を活用し、イベントや特集などタイムリーな情報を発信し図書館サービスのPRを行います。				◆「町田市教育プラン24-28」に掲げた、子ども・若者の読書活動の推進、多様な図書館サービスの提供、図書館再編と運営体制の構築などの取組を推進します。◆開館後8年が経過し、軽微ではあるが施設面で修繕が必要な箇所が増えてきています。安心して忠生図書館を利用していただくため、忠生市民センターと連携し施設の安全管理及び維持管理を行います。			
◆忠生地域にある子育て相談センターや子どもセンターただON等関係部署と連携し、図書館の魅力をアピールしていきます。							
◆図書館利用者の促進を図るため、シニア世代向けの特集を行います。							
取組状況	個別取組	○	町田市立図書館のホームページやX(旧Twitter)を活用し、イベントや特集について情報を発信し図書館サービスのPRを行いました。	○	町生市民センターを会場とした子育てセンターの「出張子育てひろば」に参加しミニおはなし会と図書館PRを6回しました。	○	シニア世代向けに様々なジャンルの本を紹介する特集2回と新刊の活字本を紹介するコーナーを新設しました。
		○					
		○					

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
貸出点数	点	目標	568,000	568,000	568,000	568,000	568,000	1年間に貸出した図書資料の延べ点数(電子書籍は含まない)
		実績	438,283	416,669	382,306		(2025年度)	
来館者数	人	目標	219,000	219,000	219,000	219,000	219,000	1年間に来館した利用者の延べ人数
		実績	161,560	159,880	151,201		(2025年度)	

②成果指標およびその他成果の説明

◆システム更改による休館もあり貸出点数、来館者数は目標に至りませんでしたが、開館期間の月平均予約件数と来館者数は、2023年度と比較して微増しました。◆本の魅力をPRする特集を多く設置し、合計125回実施しました。◆小学校3校へブックトークやおはなし会、学童保育1館の図書館見学とおはなし会を実施しました。◆中学校3校9人と小学校1校4人の職場体験を受入れました。◆関係部署6課と共催事業を行いました。(環境共生課・防災課・福祉総務課は特集、子どもセンターただONはイベント、子育て相談センターはミニおはなし会、忠生市民センターは市民センターまつり)

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目		2022年度	2023年度 A	2024年度 B	差額 B-A	勘定科目		2022年度	2023年度 A	2024年度 B	差額 B-A
行政費用	人件費	61,971	63,540	69,089	5,549	行政収入	地方税	0	0	0	0
	物件費	33,296	33,592	45,327	11,735		国庫支出金	0	0	1,830	1,830
	うち委託料	12,016	12,369	23,996	11,627		都支出金	570	989	0	△ 989
	維持補修費	0	127	0	△ 127		分担金及負担金	0	0	0	0
	扶助費	0	0	0	0		使用料及手数料	0	0	0	0
	補助費等	8	11	10	△ 1		その他	99	89	142	53
	減価償却費	9,682	931	931	0		行政収入 小計(a)	669	1,078	1,972	894
	不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0		行政収支差額(a)-(b)=(c)	△ 107,967	△ 114,643	△ 120,460	△ 5,817
	賞与・退職手当引当金繰入額	3,679	17,520	7,075	△ 10,445		金融収支差額(d)	0	0	0	0
	行政費用 小計(b)	108,636	115,721	122,432	6,711		通常収支差額(c)+(d)=(e)	△ 107,967	△ 114,643	△ 120,460	△ 5,817
特別費用(g)		719	761	625	△ 136	特別収入(f)		7,204	34	2,638	2,604
特別収支差額(f)-(g)=(h)		6,485	△ 727	2,013	2,740	当期収支差額(e)+(h)		△ 101,482	△ 115,370	△ 118,447	△ 3,077

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	物件費
決算額の主な内訳	会計年度任用職員 48,518千円 常勤職員 20,547千円 など	旧図書館システム使用料 14,957千円 新図書館システム導入委託料 11,684千円 忠生市民センター総合管理委託料 8,482千円 など
主な増減理由	職員構成の変動などにより、5,549千円増加。	新図書館システム導入委託料の増加などにより、11,735千円増加。
勘定科目	国庫支出金	
決算額の主な内訳	デジタル田園都市国家構想交付金 1,473千円 物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金 357千円	
主な増減理由	デジタル田園都市国家構想交付金などにより、1,830千円増加。	

③単位当たりコスト分析

※単位当たりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位当たりコスト	対前年度	単位当たりコストの増減理由
貸出1点あたりコスト	点	2024	382,306	320	42	人件費や物件費が増加したことなどにより、単位あたりコストが42円増加しました。
		2023	416,669	278	30	
		2022	438,283	248	△2	
床面積1㎡あたりコスト	㎡	2024	1,229	99,619	5,460	人件費や物件費が増加したことなどにより、単位あたりコストが5,460円増加しました。
		2023	1,229	94,159	5,765	
		2022	1,229	88,394	△681	

④貸借対照表

(単位:千円)

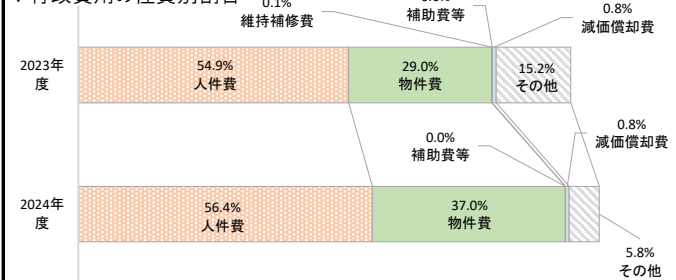
勘定科目				2023年度末 A	2024年度末 B	差額 B-A	勘定科目				2023年度末 A	2024年度末 B	差額 B-A	
流動資産	未収金			0	0	0	流動負債				6,579	6,865	286	
	不納欠損引当金			0	0	0		還付未済金			0	0	0	
	その他の流動資産			0	0	0		地方債			0	0	0	
固定資産	事業用資産	有形固定資産			0	0	0	固定負債	賞与引当金			6,579	6,865	286
		土地			0	0	0		その他の流動負債			0	0	0
		建物(取得価額)			0	0	0		地方債			0	0	0
		建物減価償却累計額			0	0	0		退職手当引当金			25,318	23,559	△ 1,759
		工作物(取得価額)			0	0	0		その他の固定負債			0	0	0
		工作物減価償却累計額			0	0	0		負債の部合計			31,897	30,424	△ 1,473
	インフラ資産	無形固定資産			0	0	0	純資産			127,701	135,023	7,322	
		有形固定資産			0	0	0							
		土地			0	0	0							
		工作物(取得価額)			0	0	0							
建設仮勘定	工作物減価償却累計額			0	0	0								
	無形固定資産			0	0	0								
				0	0	0								
その他の固定資産				159,598	165,447	5,849	純資産の部合計			127,701	135,023	7,322		
資産の部合計				159,598	165,447	5,849	負債及び純資産の部合計			159,598	165,447	5,849		

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	その他の固定資産		
決算額の主な内訳	図書資産 160,861千円 忠生図書館書架等備品 4,586千円	特になし	特になし
主な増減理由	図書資産は、購入3,346千円、寄贈1,421千円、除籍△625千円などにより、6,780千円増加。書架等備品は減価償却により、931千円減少。		

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



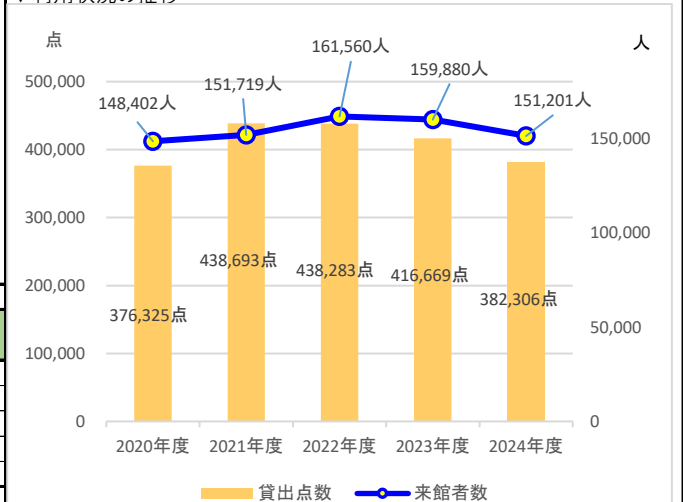
▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2024 合計	2023 合計
図書館管理事務	0.3			0.2		0.5	0.3
各館庶務事務	1.4					1.4	1.4
企画運営事務	0.4			0.6		1.0	0.9
資料貸出・閲覧業務	0.9			7.9	1.5	10.3	10.7
利用援助・普及事業				1.7		1.7	1.8
2024年度 特定事業 合計	3.0	0.0	0.0	10.4	1.5	14.9	15.1
2023年度 特定事業 合計	3.0	0.0	0.0	10.6	1.5	15.1	

6.個別分析

▽利用状況の推移



7.総括

①財務情報・非財務情報に基づく有効性の分析

◆「えいごのまちだ」を推進するため英語による「英語絵本おはなし会」を実施し、22人の参加がありました。◆忠生市民センターまつりに参加し、図書館と電子書籍のPRを実施しました。◆幅広いジャンルの資料を紹介する特集コーナーを実施し、工夫を凝らした展示と種類が多く来館者に好評でした。(児童39回、中高生10回、一般66回、コラボ3回、追悼7回、合計125回特集)◆対象年齢を分けた3種類のおはなし会や英語絵本おはなし会を実施し、参加者は2023年度と比較して135人多い543人の参加がありました。また、小さい子向けおはなし会はニーズが高かったため、ボランティア団体と調整し実施回数を年4回から11回に増やし、2023年度と比較して85人増加し143人の参加となりました。

②財務情報・非財務情報に基づく効率性の分析

◆人件費は、職員構成の変動などにより、5,549千円増加しました。
◆物件費は、新図書館システム導入委託料などにより、11,735千円増加しました。

③2024年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

◆「町田市教育プラン24-28」に掲げた、子ども・若者の読書活動の推進、多様な図書館サービスの提供、図書館再編と運営体制の構築などの取組を推進します。◆忠生市民センターの空き会議室の開放の効果もあり、2023年度と比較し中高生の来館が多くなりました。継続して中高生が来館できる取組を行う必要があります。◆来館者数が横ばい傾向にあるため、来館者の増加に向けた新たなイベントや取組を行う必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆中高生世代の図書館利用促進のため、多目的室や机のある椅子の利用について検討します。◆地域に親しまれ幅広い年齢の方が利用しやすい図書館となるよう、10周年記念イベントを実施します。◆システム更改で導入した新しい図書館サービスのPRを推進します。	◆「町田市教育プラン24-28」に掲げた、子ども・若者の読書活動の推進、多様な図書館サービスの提供、図書館再編と運営体制の構築などの取組を推進します。◆開館後9年が経過し、施設面で修繕が必要な箇所が増えてきています。安心して忠生図書館を利用していただくため、忠生市民センターと連携し施設の安全管理及び維持管理を行います。

2024年度 事業別行政評価シート

2024年度 事業別行政評価シート			部名	生涯学習部	主管課名	図書館
歳出目名	図書館費	特定事業名	木曽山崎図書館事業	事業類型	2:施設運営型	

1.事業概要

事業目的	市民がライフステージに応じ必要となる知識・情報等を「いつでも・どこでも・だれでも」自由に手に入れることができる環境を整備して、市民の知的で心豊かな生活の実現に寄与します。					
基本情報	根拠法令等	図書館法、町田市立図書館条例、町田市立図書館条例施行規則				
		2022年度	2023年度	2024年度	施設の名称	町田市立木曽山崎図書館
	蔵書数	54,631点	54,382点	55,133点	建設年月日	1976年3月25日
	予約・リクエスト件数	38,602件	40,057件	38,435件		
	貸出者数	62,412人	58,593人	52,616人	有形固定資産減価償却率	2022年度 62.7% 2023年度 65.5% 2024年度 68.3%

2. 2023年度末の総括と2024年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆「町田市教育プラン24-28」に掲げた、子ども・若者の読書活動の推進、多様な図書館サービスの提供、図書館再編と運営体制の構築などの取組の展開が必要です。◆これまで図書館を利用したことがない方々及び既に図書館を利用しているシニア世代の方々にもご利用していただけるように、魅力的な書架づくりを継続していく必要があります。◆建築後40年以上が経過していることから、利用者に安心して施設を利用していただけるよう、適正な維持管理を行う必要があります。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み(1~2年)		中長期的な取り組み(3~5年)	
◆近隣小学校等と連携し、出張おはなし会や図書館見学に取り組みます。 ◆来館者数の増加に向けた取り組みとして、他館からの資料を取り寄せ、シニア世代の方々にも満足していただけるような魅力的な書架づくりを継続していきます。 ◆他部署と連携した特集展示を行うことにより、利用促進を図ります。		◆「町田市教育プラン24-28」に掲げた、子ども・若者の読書活動の推進、多様な図書館サービスの提供、図書館再編と運営体制の構築などの取組を推進します。 ◆必要な修繕等を行い、利用者に安心して施設を利用していただけるように施設の維持管理を行います。	
取組状況	個別取組	○七国山小学校の出張おはなし会及び七国山小学校、本町田小学校での図書館見学を行いました。 ○高齢者支援課及びごみ収集課と連携した特集展示を行いました。 ○雨どいや照明器具などの修繕を行うことにより、施設の維持管理に努めました。	

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
貸出点数	点	目標	240,000	240,000	240,000	240,000	240,000	1年間に貸出した図書資料の延べ点数(電子書籍は含まない)
		実績	192,418	181,588	159,661		(2025年度)	
来館者数	人	目標	197,000	197,000	197,000	197,000	197,000	1年間に来館した利用者の延べ人数
		実績	163,306	169,078	150,066		(2025年度)	

②成果指標およびその他成果の説明

◆システム更改に伴う休館の影響などもあり、貸出点数及び来館者数は目標値には至りませんでした。◆毎月館内に特集コーナーを設置し、図書館の利用促進を図りました(60回)。◆七国山小学校にて対面での出張おはなし会を行い、252人が参加しました。◆七国山小学校、本町田小学校での図書館見学の受け入れを行い、170人が参加しました。◆バンザイサンタの折り紙(161個)の掲示、おみくじによるおすすめ本の紹介(224個)など各種イベントを実施しました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2022年度	2023年度	2024年度	差額	勘定科目	2022年度	2023年度	2024年度	差額
		A	B	B-A			A	B	B-A
人件費	41,020	42,117	45,451	3,334	地方税	0	0	0	0
物件費	13,542	13,558	19,251	5,693	国庫支出金	0	0	785	785
うち委託料	2,221	2,400	8,120	5,720	都支支出金	570	664	0	△ 664
維持補修費	329	462	1,387	925	分担金及負担金	0	0	0	0
扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	0	0	0	0
補助費等	8	7	7	0	その他	53	56	64	8
減価償却費	3,177	3,177	3,177	0	行政収入 小計(a)	623	720	849	129
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額(a)-(b)=(c)	△ 60,297	△ 64,366	△ 72,519	△ 8,153
賞与・退職手当引当金繰入額	2,844	5,765	4,095	△ 1,670	金融収支差額(d)	0	0	0	0
行政費用 小計(b)	60,920	65,086	73,368	8,282	通常収支差額(c)+(d)=(e)	△ 60,297	△ 64,366	△ 72,519	△ 8,153
特別費用(g)	1,226	3,129	2,052	△ 1,077	特別収入(f)	0	0	166	166
特別収支差額(f)-(g)=(h)	△ 1,226	△ 3,129	△ 1,886	1,243	当期収支差額(e)+(h)	△ 61,523	△ 67,495	△ 74,405	△ 6,910

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	物件費
決算額の主な内訳	会計年度任用職員 26,260千円 常勤職員 14,195千円 再任用職員 4,980千円 など	旧図書館システム使用料 7,011千円 新図書館システム導入委託料 5,484千円 清掃業務委託料 1,431千円 など
主な増減理由	職員構成の変動などにより、3,334千円増加。	新図書館システム導入委託料の増加などにより、5,693千円増加。
勘定科目	維持補修費	国庫支出金
決算額の主な内訳	雨どい修繕 326千円 1階書架、2階おはなしの部屋照明器具修繕 184千円 水中ポンプ配線修繕 98千円 など	デジタル田園都市国家構想交付金 693千円 物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金 92千円
主な増減理由	台風の影響などによる修繕が発生したため、925千円増加。	デジタル田園都市国家構想交付金などにより、785千円増加。

③単位当たりコスト分析

※単位当たりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位当たりコスト	対前年度	単位当たりコストの増減理由
貸出1点あたりコスト	点	2024	159,661	460	102	システム更改に伴う休館の影響などで貸出点数が減少したことにより、単位あたりコストが102円増加しました。
		2023	181,588	358	41	
		2022	192,418	317	20	
床面積1㎡あたりコスト	㎡	2024	320	229,275	25,881	物件費、人件費などが増加したことにより、単位あたりコストが25,881円増加しました。
		2023	320	203,394	13,019	
		2022	320	190,375	△ 937	

④貸借対照表

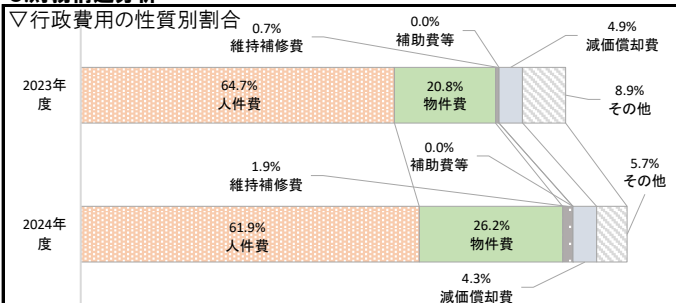
(単位:千円)

勘定科目				2023年度末 A	2024年度末 B	差額 B-A	勘定科目				2023年度末 A	2024年度末 B	差額 B-A	
流動資産	未収金		0	0	0	流動負債		3,901	4,075	174				
	不納欠損引当金		0	0	0	還付未済金		0	0	0				
	その他の流動資産		0	0	0	地方債		0	0	0				
						賞与引当金		3,901	4,075	174				
固定資産	事業用資産	有形固定資産		39,095	35,918	△ 3,177	その他の流動負債		0	0	0			
		土地		0	0	0	固定負債		16,999	15,706	△ 1,293			
		建物(取得価額)		111,462	111,462	0	地方債		0	0	0			
		建物減価償却累計額		△ 72,367	△ 75,544	△ 3,177	退職手当引当金		16,999	15,706	△ 1,293			
		工作物(取得価額)		0	0	0	その他の固定負債		0	0	0			
		工作物減価償却累計額		0	0	0	負債の部合計		20,900	19,781	△ 1,119			
	インフラ資産	無形固定資産		0	0	0	純資産		90,657	89,594	△ 1,063			
		有形固定資産		0	0	0								
		土地		0	0	0								
		工作物(取得価額)		0	0	0								
		工作物減価償却累計額		0	0	0								
無形固定資産			0	0	0									
建設仮勘定		0	0	0										
その他の固定資産		72,462	73,457	995	純資産の部合計		90,657	89,594	△ 1,063					
資産の部合計				111,557	109,375	△ 2,182	負債及び純資産の部合計				111,557	109,375	△ 2,182	

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	建物(事業用資産)	その他の固定資産	
決算額の主な内訳	木曾山崎図書館 111,462千円	図書資産 73,457千円	特になし
主な増減理由	減価償却により、3,177千円減少。	購入1,631千円、寄贈1,250千円、除籍△2,052千円などにより、995千円増加。	

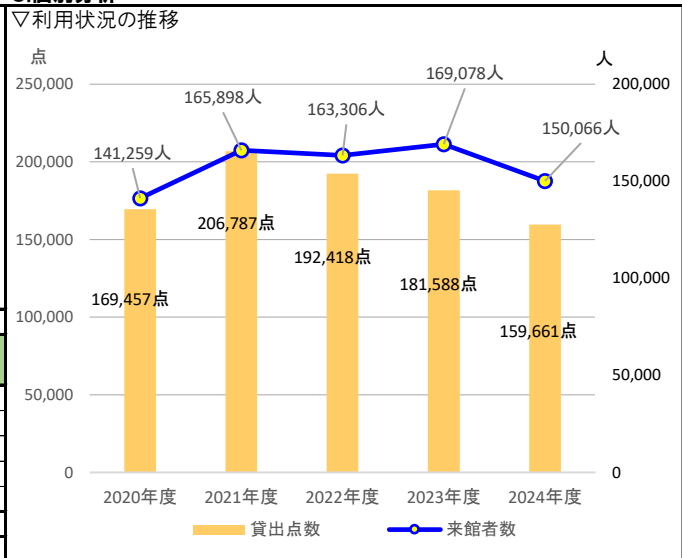
5.財務構造分析



▽事業に関わる人員 (単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2024	2023
						合計	合計
図書館管理事務	0.2	0.1		0.1		0.4	0.3
各館庶務事務	0.9	0.1		0.1		1.1	1.1
企画運営事務	0.5	0.1		0.2		0.8	1.0
資料貸出・閲覧業務	0.4	0.8		4.5	0.5	6.2	5.7
利用援助・普及事業				0.9		0.9	1.1
2024年度 特定事業 合計	2.0	1.1	0.0	5.8	0.5	9.4	9.2
2023年度 特定事業 合計	2.0	1.0	0.0	5.7	0.5	9.2	

6.個別分析



7.総括

①財務情報・非財務情報に基づく有効性の分析

- ◆七国山小学校の1年生、2年生、3年生及びすばるの学級を対象に出張おはなし会を実施し、252人が参加しました。また、七国山小学校及び本町田小学校での図書館見学の受け入れを実施し、170人が参加しました。
- ◆ミニマリスト、自由研究、ハンディキャップサービスの本や大人向けの絵本などを他館から取り寄せて、魅力的な書架づくりに取り組みました。
- ◆高齢者支援課との「介護予防月間」及びごみ収集課との「ごみ収集車の火災を防ごう」の特集を実施し、図書の利用促進を図りました。
- ◆雨どい修繕、照明器具修繕などの緊急修繕を行うことにより、施設の維持管理に努めました。

②財務情報・非財務情報に基づく効率性の分析

- ◆人件費は、職員構成の変動などにより、3,334千円増加しました。
- ◆物件費は、新図書館システム導入委託料などにより、5,693千円増加しました。
- ◆維持補修費は、雨どいや1階書架、2階おはなしの部屋照明器具修繕などにより、925千円増加しました。

③2024年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

- ◆「町田市教育プラン24-28」に掲げた、子ども・若者の読書活動の推進、多様な図書館サービスの提供、図書館再編と運営体制の構築などの取組の展開が必要です。
- ◆これまで図書館を利用したことがない方々及び既に図書館を利用しているシニア世代の方々にもご利用いただけるように、魅力的な書架づくりを継続していく必要があります。
- ◆毎月開催しているおはなし会の参加人数を増加させる取り組みが必要となります。
- ◆建築後40年以上が経過していることから、利用者に安心して施設を利用していただけるよう、適正な維持管理を行う必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆近隣の小学校等と連携し、出張おはなし会や図書館見学に取り組みます。 ◆他館からの資料を取り寄せ、シニア世代の方々にも満足していただけるような魅力的な書架づくりを継続していくとともに、他部署と連携した特集展示の回数を増やします。 ◆照明器具のLED修繕を行うことにより、快適な読書環境の整備を行います。	◆「町田市教育プラン24-28」に掲げた、子ども・若者の読書活動の推進、多様な図書館サービスの提供、図書館再編と運営体制の構築などの取組を推進します。 ◆必要な修繕等を行い、利用者に安心して施設を利用していただけるように施設の維持管理を行います。

2024年度 事業別行政評価シート

2024年度 事業別行政評価シート					部名	生涯学習部	主管課名	図書館
歳出目名	図書館費	特定事業名	堺図書館事業	事業類型	2:施設運営型			

1.事業概要

事業目的	市民がライフステージに応じ必要となる知識・情報等を「いつでも・どこでも・だれでも」自由に手に入れることができる環境を整備して、市民の知的で心豊かな生活の実現に寄与します。					
基本情報	根拠法令等	図書館法、町田市立図書館条例、町田市立図書館条例施行規則				
		2022年度	2023年度	2024年度	施設の名称	町田市立堺図書館
	蔵書数	69,449点	69,801点	68,861点	建設年月日	1983年9月25日
	予約・リクエスト件数	34,253件	33,193件	29,541件		
	貸出者数	40,493人	39,184人	31,904人	有形固定資産減価償却率	2022年度 2023年度 2024年度 - - -

2. 2023年度末の総括と2024年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆「町田市教育プラン24-28」に掲げた、子ども・若者の読書活動の推進、多様な図書館サービスの提供、図書館再編と運営体制の構築などの取組の展開が必要です。◆隣接する八王子、相模原を含む「堺地域」にある図書館として、利用を増やす取組が必要です。◆移動図書館については、移動図書館巡回場所見直し基本方針に基づいて出張運行先の拡大や、定期巡回場所の運行時間等の見直しの検討が必要となります。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み(1~2年)		中長期的な取り組み(3~5年)	
取組状況	○	◆堺市民センターの工事中も、一定のサービスが提供できるよう取り組みます。 ◆地域と連携して、堺市民センター祭りの参加、展示会を実施します。	◆「町田市教育プラン24-28」に掲げた、子ども・若者の読書活動の推進、多様な図書館サービスの提供、図書館再編と運営体制の構築などの取組を推進します。 ◆適切な修繕などを行い、施設の安全管理に努めます。 ◆移動図書館の効率性・効果的な運行の検討を進めます。
	個別取組	○堺市民センター改修工事に伴う休館中に、「予約資料の受渡しサービス」を実施しました。 ○堺市民センター祭りに参加し、雑誌の付録、リサイクル本の配布、電子書籍PRを行いました。 ○地域で活動している5つの団体と個人3人と連携し、展示会を9回行うことができました。	

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
貸出点数	点	目標	257,000	257,000	257,000	257,000	257,000	1年間に貸出した図書資料の延べ点数 (移動図書館1台分を含む、電子書籍は含まない)
		実績	183,503	174,205	136,397		(2025年度)	
来館者数	人	目標	74,000	74,000	74,000	74,000	74,000	1年間に来館した利用者の延べ人数
		実績	61,569	60,697	52,373		(2025年度)	

②成果指標およびその他成果の説明

◆複合施設の利点を生かし堺市民センター祭りやイベントで図書館PRを実施しましたが、堺市民センター改修工事に伴う休館期間があったため貸出点数、来館者数は目標に至りませんでした。◆おはなし会(20回参加者133人)、図書館見学(1件56人)、児童対象のイベント(3回参加者186人)等を行いました。◆子どもセンターばお分館WAAAQにて出張おはなし会(2回参加者20人)を行いました。◆移動図書館1台が22か所のサービスステーションを2週間ごとに巡回して、図書館が近隣にない地域の利用者へのサービスを実施しました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目		2022年度	2023年度 A	2024年度 B	差額 B-A	勘定科目		2022年度	2023年度 A	2024年度 B	差額 B-A
行政費用	人件費	54,064	55,446	59,766	4,320	行政収入	地方税	0	0	0	0
	物件費	14,337	14,625	21,275	6,650		国庫支出金	0	0	5,740	5,740
	うち委託料	3,429	3,620	10,673	7,053		都支出金	898	1,032	0	△ 1,032
	維持補修費	338	490	83	△ 407		分担金及負担金	0	0	0	0
	扶助費	0	0	0	0		使用料及手数料	0	0	0	0
	補助費等	12	11	10	△ 1		その他	46	50	66	16
	減価償却費	0	0	0	0		行政収入 小計(a)	944	1,082	5,806	4,724
	不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0		行政収支差額(a)-(b)=(c)	△ 71,860	△ 78,050	△ 81,466	△ 3,416
	賞与・退職手当引当金繰入額	4,053	8,560	6,138	△ 2,422		金融収支差額(d)	0	0	0	0
	行政費用 小計(b)	72,804	79,132	87,272	8,140		通常収支差額(c)+(d)=(e)	△ 71,860	△ 78,050	△ 81,466	△ 3,416
特別費用(g)		1,036	1,957	2,926	969	特別収入(f)		5,123	291	912	621
特別収支差額(f)-(g)=(h)		4,087	△ 1,666	△ 2,014	△ 348	当期収支差額(e)+(h)		△ 67,773	△ 79,716	△ 83,480	△ 3,764

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	物件費
決算額の主な内訳	会計年度任用職員 37,560千円 常勤職員 22,182千円 など	新図書館システム導入委託料 7,129千円 旧図書館システム使用料 7,011千円 堺市民センター物件費 3,898千円 など
主な増減理由	職員構成の変動などにより、4,320千円増加。	新図書館システム導入委託料の増加などにより、6,650千円増加。
勘定科目	維持補修費	国庫支出金
決算額の主な内訳	堺市民センター維持補修費 83千円	デジタル田園都市国家構想交付金 5,740千円
主な増減理由	堺市民センター維持補修費(堺市民センター正面玄関前外構改修工事負担分)などの減少により、407千円減少。	デジタル田園都市国家構想交付金が5,740千円増加。

③単位当たりコスト分析

※単位当たりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位当たりコスト	対前年度	単位当たりコストの増減理由
貸出1点あたりコスト	点	2024	136,397	640	186	貸出点数が減少したことなどにより、単位あたりコストが186円増加しました。
		2023	174,205	454	57	
		2022	183,503	397	△ 27	
床面積1㎡あたりコスト	㎡	2024	430	202,958	18,930	物件費が増加したことなどにより、単位あたりコストが18,930円増加しました。
		2023	430	184,028	14,716	
		2022	430	169,312	△ 12,793	

④貸借対照表

(単位:千円)

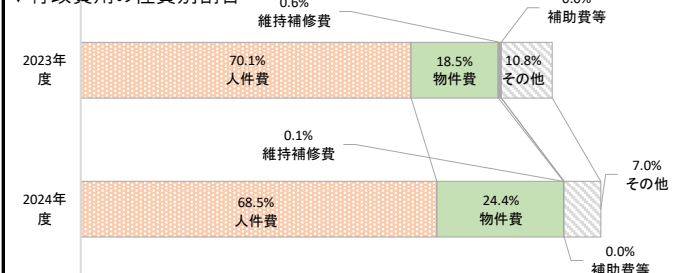
勘定科目				2023年度末 A	2024年度末 B	差額 B-A	勘定科目				2023年度末 A	2024年度末 B	差額 B-A
流動 資産	未収金			0	0	0	流動負債				5,834	6,138	304
	不納欠損引当金			0	0	0		還付未済金			0	0	0
	その他の流動資産			0	0	0		地方債			0	0	0
固定 資産	事業 用資産	有形固定資産			0	0	0	賞与引当金			5,834	6,138	304
		土地			0	0	0	その他の流動負債			0	0	0
		建物(取得価額)			0	0	0	固定負債			26,403	24,307	△ 2,096
		建物減価償却累計額			0	0	0	地方債			0	0	0
		工作物(取得価額)			0	0	0	退職手当引当金			26,403	24,307	△ 2,096
		工作物減価償却累計額			0	0	0	その他の固定負債			0	0	0
	無形固定資産			0	0	0	負債の部合計			32,237	30,445	△ 1,792	
	イン フラ 資産	有形固定資産			0	0	0	純資産			95,562	97,374	1,812
		土地			0	0	0						
		工作物(取得価額)			0	0	0						
		工作物減価償却累計額			0	0	0						
		無形固定資産			0	0	0						
	建設仮勘定			0	0	0							
その他の固定資産			127,799	127,819	20	純資産の部合計			95,562	97,374	1,812		
資産の部合計			127,799	127,819	20	負債及び純資産の部合計			127,799	127,819	20		

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	その他の固定資産		
決算額の主な内訳	図書資産 127,819千円		特になし
主な増減理由	購入1,596千円、寄贈503千円、除籍△2,926千円などにより、図書資産が20千円増加。		

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



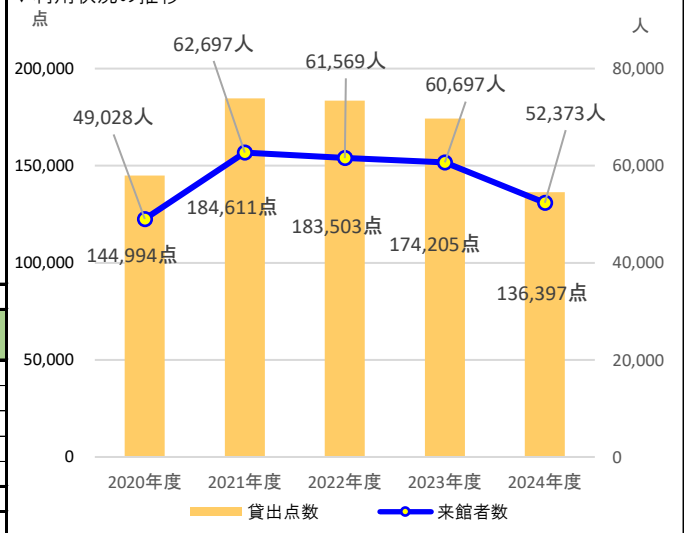
▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2024 合計	2023 合計
図書館管理事務	0.2			0.1		0.3	0.3
各庶務事務	0.9			0.5		1.4	0.7
企画運営事務	0.6			0.6		1.2	1.1
資料貸出・閲覧業務	1.3			6.9		8.2	8.8
利用援助・普及事務				0.6		0.6	0.7
2024年度 特定事業 合計	3.0	0.0	0.0	8.7	0.0	11.7	11.6
2023年度 特定事業 合計	3.0	0.0	0.0	8.6	0.0	11.6	

6.個別分析

▽利用状況の推移



7.総括

①財務情報・非財務情報に基づく有効性の分析

- ◆関連部署との共催事業として、高齢者支援課と連携した「D-books」(認知症理解促進、施策周知のブックフェア)特集を行いました。
- ◆地域で活動している5つの団体と個人3人と連携し、展示会を9回行うことができました。
- ◆堺市民センター祭りに参加し、雑誌の付録、リサイクル本の配布、電子書籍PRを行いました。
- ◆移動図書館が22か所のサービスステーションへ巡回を行いました。夏場の熱中症警戒アラートや堺市民センター改修工事による運行停止の影響で、貸出冊数が2023年度35,704冊から2024年度26,027冊になりました。

②財務情報・非財務情報に基づく効率性の分析

- ◆人件費は、職員構成の変動などにより4,320千円増加しました。
- ◆物件費は、新図書館システム導入委託料の増加などにより、6,650千円増加しました。
- ◆維持補修費は、堺市民センター維持補修費(堺市民センター正面玄関前外構改修工事負担分)などの減少により、407千円減少しました。

③2024年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

- ◆「町田市教育プラン24-28」に掲げた、子ども・若者の読書活動の推進、多様な図書館サービスの提供、図書館再編と運営体制の構築などの取組の展開が必要です。
- ◆隣接する八王子、相模原を含む「堺地域」にある図書館として、利用を増やす取組が必要です。
- ◆移動図書館については、移動図書館巡回場所見直し基本方針に基づいて出張運行先の拡大や、定期巡回場所の運行時間等の見直しの検討が必要となります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆堺市民センターの改修工事中も、一定のサービスが提供できるよう取り組みます。 ◆地域と連携した展示の実施や地域の小学校を対象とした図書館見学を積極的に受け入れます。 ◆移動図書館の機能再編方法を決定します。	◆「町田市教育プラン24-28」に掲げた、子ども・若者の読書活動の推進、多様な図書館サービスの提供、図書館再編と運営体制の構築などの取組を推進します。 ◆適切な修繕などを行い、施設の安全管理に努めます。 ◆移動図書館の効率的・効果的な運行の検討を進めます。

2024年度 事業別行政評価シート

部名	生涯学習部	主管課名	図書館
歳出目名	図書館費	特定事業名	鶴川駅前図書館事業
事業類型	2:施設運営型		

1.事業概要

事業目的	市民がライフステージに応じ必要となる知識・情報等を「いつでも・どこでも・だれでも」自由に手に入れることができる環境を整備して、市民の知的で心豊かな生活の実現に寄与します。					
基本情報	根拠法令等	図書館法、町田市立図書館条例、町田市立図書館条例施行規則				
		2022年度	2023年度	2024年度	施設の名称	町田市立鶴川駅前図書館
	蔵書数	113,398点	115,339点	121,230点	建設年月日	2012年8月31日
	予約・リクエスト件数	110,822件	117,957件	110,952件		
	貸出者数	149,426人	147,583人	135,751人	有形固定資産減価償却率	2022年度 2023年度 2024年度 - - -

2. 2023年度末の総括と2024年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆「町田市教育プラン24-28」に掲げた、子ども・若者の読書活動の推進、多様な図書館サービスの提供、図書館再編と運営体制の構築などの取組の展開が必要です。◆指定管理者による管理運営のサービス水準を維持・向上させるため、定例連絡会や利用者アンケート調査などのモニタリングに引き続き取り組む必要があります。また、管理運営状況評価の検証のため、評価委員会部会の効果的な開催手法を検討する必要があります。◆引き続き民間事業者ならではの図書館サービスの導入をすすめて、利用状況のさらなる向上に取り組む必要があります。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み(1~2年)		中長期的な取り組み(3~5年)	
◆民間事業者ならではの図書館サービスを積極的に導入します。		◆「町田市教育プラン24-28」に掲げた、子ども・若者の読書活動の推進、多様な図書館サービスの提供、図書館再編と運営体制の構築などの取組を推進します。	
◆指定管理者による管理運営のサービス水準を維持・向上させるようモニタリングを行います。		◆指定管理者により提供される図書館サービス水準のモニタリングや、管理運営状況評価を実施します。	
◆2024年度が初めてとなる、評価委員会部会を開催し管理運営状況評価の検証を実施します。			
取組状況	個別取組	○利用者サービス向上策として、開館日・開館時間の拡大や、Wi-Fi環境の提供、本の要約を読める「flier」の提供などを継続実施しました。	
		○「科学漫画『サバイバル』シリーズ クイズ大会 & 撮影会」など民間事業者の特色を活かした事業を実施しました。	
		○評価委員会部会や、管理運営状況モニタリングを通じて、指定管理者に求める要求水準を満たす運営状況であることを確認しました。	

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
貸出点数	点	目標	558,000	494,928	504,926	515,125	525,530	1年間に貸出した図書資料の延べ点数(電子書籍は含まない)
		実績	439,047	429,263	391,689		(2026年度)	
来館者数	人	目標	336,000	339,752	349,647	359,830	370,310	1年間に来館した利用者の延べ人数
		実績	350,194	353,399	390,270		(2026年度)	

②成果指標およびその他成果の説明

◆システム更改に伴う約1ヶ月間の休館の影響もあり、2023年度と比較して貸出点数は37,574点減少しましたが、来館者数は36,871人増加し、目標値を上回りました。◆新たに町田市社会福祉協議会や鶴川第二小学校、カフェマーケットと連携展示・特集を実施しました。また、「コラボフェス」と題して、11月にはFC町田ゼルビアとコラボイベントを実施し、約200人の参加がありました。◆新たな試みとして「ブックトーク『エルマーのぼうけん』のせかいをたのしもう!」をポプリホールのイベントと連携して開催、22人の参加がありました。◆利用者アンケートでは総合満足度が約97.1%であり、高い満足度を維持しています。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目		2022年度	2023年度 A	2024年度 B	差額 B-A	勘定科目	2022年度	2023年度 A	2024年度 B	差額 B-A
行政費用	人件費	3,763	2,195	2,342	147	地方税	0	0	0	0
	物件費	127,879	129,219	143,251	14,032	国庫支出金	0	0	1,473	1,473
	うち委託料	110,613	112,041	125,622	13,581	都支支出金	97	85	1,092	1,007
	維持補修費	0	429	1,300	871	分担金及負担金	0	0	0	0
	扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	0	0	0	0
	補助費等	56	56	56	0	その他	169	169	202	33
	減価償却費	0	0	0	0	行政収入 小計(a)	266	254	2,767	2,513
	不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 131,700	△ 131,864	△ 144,685	△ 12,821
	賞与・退職手当引当金繰入額	268	219	503	284	金融収支差額 (d)	0	0	0	0
	行政費用 小計 (b)	131,966	132,118	147,452	15,334	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 131,700	△ 131,864	△ 144,685	△ 12,821
特別費用 (g)		1,164	2,163	1,646	△ 517	特別収入 (f)	29,382	717	4,946	4,229
特別収支差額 (f)-(g)=(h)		28,218	△ 1,446	3,300	4,746	当期収支差額 (e)+(h)	△ 103,482	△ 133,310	△ 141,385	△ 8,075

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	物件費
決算額の主な内訳	常勤職員 2,340千円 など	鶴川駅前図書館指定管理委託料 112,389千円 旧図書館システム使用料 14,957千円 新図書館システム導入委託料 11,684千円 など
主な増減理由	職員構成の変動により、147千円増加。	新図書館システム導入委託料の増加などにより、14,032千円増加。
勘定科目	維持補修費	国庫支出金
決算額の主な内訳	空調室外機改修工事 1,300千円	デジタル田園都市国家構想交付金 1,473千円
主な増減理由	空調室外機の改修工事により、871千円増加。	デジタル田園都市国家構想交付金が1,473千円増加。

③単位当たりコスト分析

※単位当たりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位当たりコスト	対前年度	単位当たりコストの増減理由
貸出1点あたりコスト	点	2024	391,689	376	68	貸出点数が減少したことなどにより、単位当たりのコストが68円増加しました。
		2023	429,263	308	7	
		2022	439,047	301	2	
床面積1㎡あたりコスト	㎡	2024	1,332	110,700	11,512	物件費が増加したことなどにより、単位あたりコストが11,512円増加しました。
		2023	1,332	99,188	114	
		2022	1,332	99,074	1,001	

④貸借対照表

(単位:千円)

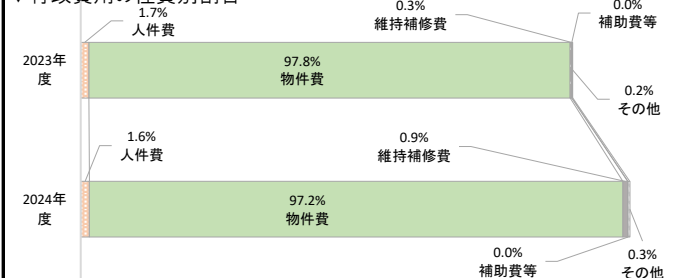
勘定科目				2023年度末 A	2024年度末 B	差額 B-A	勘定科目				2023年度末 A	2024年度末 B	差額 B-A	
流動資産	未収金			0	0	0	流動負債				219	242	23	
	不納欠損引当金			0	0	0		還付未済金			0	0	0	
	その他の流動資産			0	0	0		地方債			0	0	0	
固定資産	事業用資産	有形固定資産			0	0	0	固定負債	賞与引当金			219	242	23
		土地			0	0	0		その他の流動負債			0	0	0
		建物(取得価額)			0	0	0		地方債			0	0	0
		建物減価償却累計額			0	0	0		退職手当引当金			2,170	2,244	74
		工作物(取得価額)			0	0	0		その他の固定負債			0	0	0
		工作物減価償却累計額			0	0	0		負債の部合計			2,389	2,486	97
	インフラ資産	無形固定資産			0	0	0	純資産				155,010	162,706	7,696
		有形固定資産			0	0	0							
		土地			0	0	0							
		工作物(取得価額)			0	0	0							
		工作物減価償却累計額			0	0	0							
	建設仮勘定	無形固定資産			0	0	0							
					0	0	0							
その他の固定資産			157,399	165,192	7,793	純資産の部合計			155,010	162,706	7,696			
資産の部合計				157,399	165,192	7,793	負債及び純資産の部合計				157,399	165,192	7,793	

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	その他の固定資産		
決算額の主な内訳	図書資産 165,192千円		特になし
主な増減理由	購入3,288千円、寄贈1,206千円、除籍△1,646千円などにより、図書資産が7,793千円増加。		特になし

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



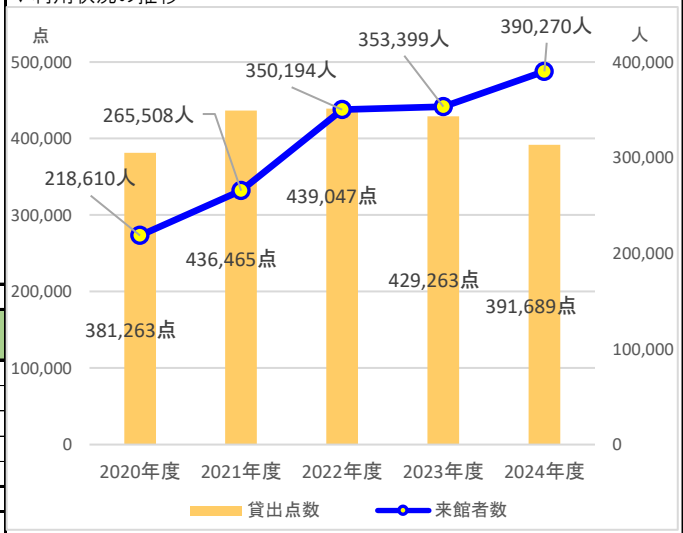
▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2024 合計	2023 合計
						2024 合計	2023 合計
図書館管理事務						0.0	0.0
各館庶務事務						0.0	0.0
企画運営事務	0.2					0.2	0.3
資料貸出・閲覧業務						0.0	0.0
利用援助・普及事業						0.0	0.0
2024年度 特定事業 合計	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.3
2023年度 特定事業 合計	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	

6.個別分析

▽利用状況の推移



7.総括

①財務情報・非財務情報に基づく有効性の分析

◆久美堂本町田店での予約本受渡しサービスの利用冊数は、2024年度が約9,100点となり、2023年度と比較して約2,600点増加しました。◆利用者サービス向上の取組として、バリアフリーを意識した館内レイアウトや英語表示の見直し、リーディングトラックの配置場所変更と使用条件緩和、オリジナルキャラクターとロゴマークのスタンプ作成を実施しました。また、10月のオリジナルキャラクター誕生2周年イベント「さがして！かりて！シールラリー」では延べ169人の参加がありました。◆地域との連携強化の取組として、町田インドネシア友好協会から講師を招いての文化講座の開催やFC町田ゼルビア連携イベントなど53件実施しました。

②財務情報・非財務情報に基づく効率性の分析

◆行政費用は2023年度と比べて、図書館システム入れ替えにより増加しましたが、主な成果である来館者数は良好であり、利用者満足度も約97.1%と高いことから、指定管理者制度導入の効果が発揮されています。

③2024年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

◆「町田市教育プラン24-28」に掲げた、子ども・若者の読書活動の推進、多様な図書館サービスの提供、図書館再編と運営体制の構築などの取組の展開が必要です。
◆指定管理者による管理運営のサービス水準を維持・向上させるため、定例連絡会や利用者アンケート調査などのモニタリングに引き続き取り組む必要があります。
◆出版社との連携など書店ならではの図書館サービスに継続して取り組む必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆民間事業者ならではの図書館サービスを積極的に導入します。 ◆指定管理者による管理運営のサービス水準を維持・向上させるようモニタリングを行います。 ◆2026年度に指定期間が終了するため、公募にむけて要求水準や業務仕様書の見直しに取り組みます。	◆「町田市教育プラン24-28」に掲げた、子ども・若者の読書活動の推進、多様な図書館サービスの提供、図書館再編と運営体制の構築などの取組を推進します。 ◆指定管理者により提供される図書館サービス水準のモニタリングや、管理運営状況評価を実施します。

2024年度 課別行政評価シート

生涯学習部	課名	図書館	歳出目名	文学館費
			事業類型	d:事業型(施設運営・受益者負担)

1.組織概要

組織の使命	「ことばの扉」として、あらゆる世代の人たちに、ことばや文字、文学の魅力に触れる機会、学びのきっかけとなる機会を提供します。また世代を超えて多様な考え方や価値観に触れ、コミュニケーションを図ることで、創造性を高め豊かな心を育む場所となります。	取他り自組み治体等の	◆東京都内で“文学館”の名を冠する総合文学館は日本近代文学館、世田谷文学館、当館の3館のみです。多摩26市唯一の総合文学館として、文字・ことば・文学をテーマにした特色のある事業を展開しています。◆近隣の文学館でも施設の老朽化が深刻化しており、鎌倉文学館では2023年から2029年までかけて大規模修繕が行われています。
所管事務	◆ことばや文学をテーマとする展覧会、講座、講演会、教育普及事業に関すること ◆小・中・高生を対象にした創作コンクールに関すること ◆図書館・文学館資料の貸出、閲覧、寄贈、寄託等に関すること ◆個人・サークルへの会議室の貸出に関すること ◆ことばや文学の普及を目的とした広報活動に関すること ◆施設・設備の維持管理に関すること		

基本情報	根拠法令等 町田市民文学館条例、町田市民文学館条例施行規則									
				2022年度	2023年度	2024年度	施設の名称		町田市民文学館ことばらんど	
	利用料金収入 (単位:千円)			3,772	3,058	2,984	建設年月日		2006年6月1日	
	受益者負担比率			2.6%	2.2%	1.8%			2022年度	2023年度
							有形固定資産減価償却率		31.4%	32.9%

2.2023年度末の総括と2024年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆未来を担う若い世代にことばや文字、文学の魅力を伝えるため、柔軟な発想で事業を企画・展開する必要があります。◆「ことばらんどショートショートコンクール」では効果的なPRを行い、より多くの方に応募していただく必要があります。◆アウトリーチ事業を充実させ、市民が文学にふれあう機会を作り出す必要があります。◆市民が郷土愛や誇りを持てるよう、町田市の歴史や文化を学ぶ機会を充実させる必要があります。◆積極的に地域や人とのつながりを作り出し、幅広い層の方に文学館を利用してもらう必要があります。◆施設の老朽化が進んでいるため、適切な修繕を進める必要があります。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み(1～2年)		中長期的な取り組み(3～5年)	
◆ことばや文字、文学の魅力を伝え、新たな学びや学びのきっかけとなる展覧会や教育普及事業を実施します。◆学生と協働で作成した文学ガイド「町田ブンガク」を使用して出張授業を行います。◆より多くの応募が得られるように学校と連携しながら「ことばらんどショートショートコンクール」を実施します。		◆地域協力者や団体、事業所等と連携して事業を実施します。◆YouTube、X、Instagram等のSNSを活用して、効果的なPR活動を行います。◆関係部署と連携し、中規模修繕工事の実施を検討します。	
取組状況	◎	◎	◎
	◎	◎	◎
	◎	◎	◎

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
展覧会観覧者数	人	目標	23,000	25,000	23,500	26,500	26,500	年4回開催している展覧会の観覧者数
		実績	25,446	22,902	32,548		(2025年度)	
ショートショートコンクール応募件数	件	目標	1,000	1,000	1,050	1,100	1,250	2021年度から実施している「ことばらんどショートショートコンクール」の応募件数
		実績	887	1,002	1,149		(2028年度)	

②成果指標およびその他成果の説明

◆展覧会観覧者数は目標値を大きく上回り、夏季展「チリとチリ」 どうかや絵本の世界展」が好評を博し17,134人でした。町田ゆかりの作家の没後1周年に合わせて開催した秋季有料展「森村誠一展」におけるアンケートでは、約94%の観覧者から「満足」の回答が得られました。◆「ことばらんどショートショートコンクール」では市内の大学生と協働して中央図書館と市庁舎にて出張展示を実施し事業のPRをしたほか、出張授業を16回実施し目標値を上回る1,149件の応募が得られました。◆SNSを通じた情報発信を積極的に行い、Xのフォロワー数は753人増え3,353人になりました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)									
勘定科目	2022年度	2023年度	2024年度	差額	勘定科目	2022年度	2023年度	2024年度	差額
		A	B	B-A			A	B	B-A
行政費用	人件費	76,172	74,847	83,112	8,265	地方税	0	0	0
	うち時間外勤務手当	1,503	1,332	1,301	△ 31	保険料	0	0	0
	物件費	38,825	38,177	41,871	3,694	国庫支出金	0	1,959	2,572
	うち委託料	18,778	18,728	22,104	3,376	都支出金	0	0	6,666
	維持補修費	6,163	1,421	2,946	1,525	分担金及負担金	0	0	0
	扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	3,772	3,058	2,984
	補助費等	2,487	2,617	2,847	230	その他	2,133	913	1,088
	減価償却費	13,423	14,374	14,614	240	行政収入 小計(a)	5,905	5,930	13,310
	不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 139,782	△ 132,462	△ 151,009
	賞与・退職手当引当金繰入額	8,617	6,956	18,929	11,973	金融収支差額 (d)	0	0	0
	行政費用 小計 (b)	145,687	138,392	164,319	25,927	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 139,782	△ 132,462	△ 151,009
	特別費用 (g)	0	0	0	0	特別収入 (f)	0	2,694	0
	特別収支差額 (f)-(g)=(h)	0	2,694	0	△ 2,694	当期収支差額 (e)+(h)	△ 139,782	△ 129,768	△ 151,009
									△ 21,241

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	物件費	維持補修費
決算額の主な内訳	施設貸出・管理業務委託 5,347千円 清掃業務委託(長期継続契約) 3,600千円 新図書館システム導入等委託料 3,105千円 など	文学サロン照明器具修繕 1,154千円 資料閲覧室照明器具修繕 468千円 事務室照明器具修繕 385千円 など
主な増減理由	図書館システム更改のため3,694千円増加。	文学館1階の事務室、閲覧室、文学サロンの照明器具をLED化したため1,525千円増加。
勘定科目	国庫支出金	その他(行政収入)
決算額の主な内訳	物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金 2,225千円 デジタル田園都市国家構想交付金 347千円	受託販売収入 733千円 光熱水費使用料 147千円 複写機等使用料 116千円 など
主な増減理由	物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金及びデジタル田園都市国家構想交付金により613千円増加。	展覧会における受託販売収入の増加等により175千円増加。

③単位当たりコスト分析

※単位当たりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位当たりコスト	対前年度	単位当たりコストの増減理由
来館者1人あたりコスト	人	2024	62,490	2,630	△ 23	人件費、物件費、維持補修費は増加しましたが、来館者数が増加したため、来館者1人あたりのコストは23円(0.9%)減少しました。
		2023	52,155	2,653	307	
		2022	62,089	2,346	△ 428	
開館1日あたりコスト	日	2024	304	540,523	80,749	人件費、物件費、維持補修費の増加により、開館1日あたりのコストは80,749円(17.6%)増加しました。
		2023	301	459,774	△ 27,473	
		2022	299	487,247	△ 29,787	

④貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目		2023年度末 A	2024年度末 B	差額 B-A	勘定科目		2023年度末 A	2024年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債		0	8,034	8,034
	不納欠損引当金	0	0	0		還付未済金	0	0	0
	その他の流動資産	0	0	0		地方債	0	0	0
固定資産	有形固定資産	689,090	687,680	△ 1,410	固定負債	賞与引当金	0	8,034	8,034
	土地	220,902	220,902	0		その他の流動負債	0	0	0
	建物(取得価額)	697,333	710,537	13,204		負債の部合計	0	51,797	51,797
	建物減価償却累計額	△ 229,145	△ 243,759	△ 14,614	純資産	地方債	0	0	0
	工作物(取得価額)	0	0	0		退職手当引当金	0	51,797	51,797
	工作物減価償却累計額	0	0	0		その他の固定負債	0	0	0
	無形固定資産	0	0	0	純資産の部合計	負債及び純資産の部合計	689,090	627,849	△ 61,241
	有形固定資産	0	0	0					
	土地	0	0	0					
	工作物(取得価額)	0	0	0					
	工作物減価償却累計額	0	0	0					
インフラ資産	無形固定資産	0	0	0					
	有形固定資産	0	0	0					
	土地	0	0	0					
建設仮勘定	工作物(取得価額)	0	0	0					
	工作物減価償却累計額	0	0	0					
	無形固定資産	0	0	0					
その他の固定資産	有形固定資産	0	0	0					
	土地	0	0	0					
	工作物(取得価額)	0	0	0					
	工作物減価償却累計額	0	0	0					
資産の部合計		689,090	687,680	△ 1,410	負債及び純資産の部合計		689,090	627,849	△ 61,241

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	土地(事業用資産)	建物(事業用資産)	
決算額の主な内訳	町田市民文学館ことばらんど 220,902千円	町田市民文学館ことばらんど 710,537千円	特になし
主な増減理由	増減なし	空調設備の更新工事により、建物取得価額が13,204千円増加。 減価償却により14,614千円減少。	

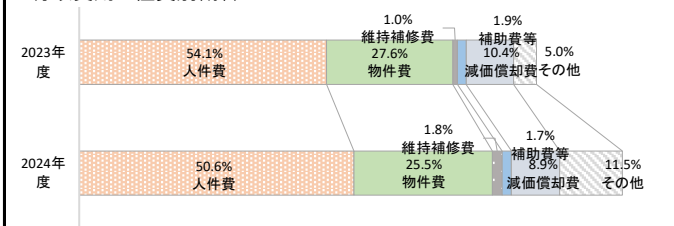
⑥キャッシュ・フロー収支差額集計表

(単位:千円)

勘定科目	金額	勘定科目	金額	勘定科目	金額
行政サービス活動収入	13,310	社会資本整備等投資活動収入	0	財務活動収入	0
行政サービス活動支出	142,062	社会資本整備等投資活動支出	0	財務活動支出	0
行政サービス活動収支差額(a)	△ 128,752	社会資本整備等投資活動収支差額(b)	0	財務活動収支差額(c)	0
				収支差額 合計 (a)+(b)+(c)	△ 128,752
				一般財源充当調整額	128,752

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



▽事業に関わる人員

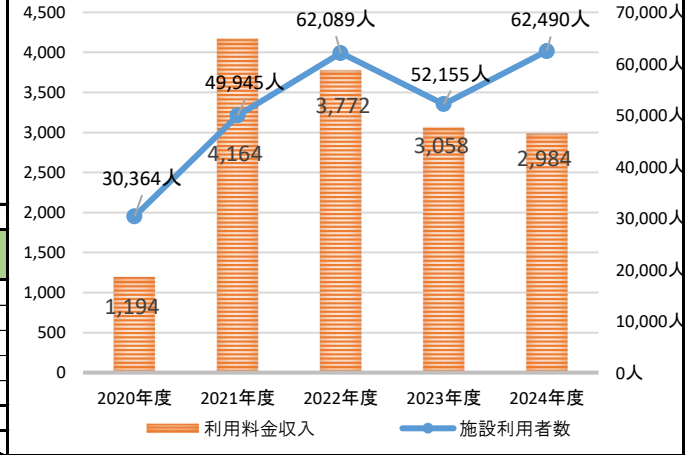
(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2024 合計	2023 合計
管理事務	3.3			0.2		3.5	3.8
管理事務(施設等貸出)						0.0	0.0
展示事業	1.9			1.8	1.5	5.2	5.1
学習事業	0.3			1.4	0.4	2.1	2.0
資料収集事業	0.5			3.9	0.5	4.9	4.3
2024年度 歳出目 合計	6.0	0.0	0.0	7.3	2.4	15.7	15.2
2023年度 歳出目 合計	5.8	0.0	0.0	6.8	2.6	15.2	

6.個別分析

▽利用料金収入と利用状況の推移

単位:千円



7.総括

①財務情報・非財務情報に基づく有効性の分析

◆展覧会について、柔軟な発想と現代的視点で作家・作品・テーマを選定してきた成果として、年間観覧者数が9,646人(42.1%)増加しました。◆出張授業を3回(23.1%)増やしたこともあり、「ことばらんどショートショートコンクール」の応募作品数が147作品(14.7%)増加しました。◆各事業と紐づけてSNSの活用を積極的に進めた結果、Xのフォロワーが753人(29.0%)増加しました。

②財務情報・非財務情報に基づく効率性の分析

◆施設の老朽化が進んでおり、関係部署と連携しながら適切な修繕を実施したため、1階照明器具のLED化などにより維持補修費は1,421千円から2,946千円(+1,525千円)に増加しました。◆展覧会における関連商品の受託販売は、盛況な夏展での販売好調により512千円から733千円(+221千円)に増加しました。◆展覧会開催に当たりふさと納税制度を活用したほか、助成金申請や町田市民間提案制度にエントリーしました。

③2024年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

◆未来を担う若い世代にことばや文字、文学の魅力を伝えるため、柔軟な発想で事業を企画・展開する必要があります。◆「ことばらんどショートショートコンクール」では効果的なPRを行い、より多くの方に応募していただく必要があります。◆アウトリーチ事業を改善・充実させ、市民が文学にふれあう機会を作り出す必要があります。◆積極的に地域や人とのつながりを作り出し、幅広い層の方に文学館を利用してもらう必要があります。◆施設老朽化に対し、関係部署と連携し、適切な中規模修繕計画を進める必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆ことばや文字、文学の魅力を伝え、新たな学びや学びのきっかけとなる展覧会や教育普及事業を実施します。◆創作の楽しさを多くの児童・生徒に知ってもらうため「ことばらんどショートショートコンクール」を実施します。◆中規模修繕工事の内容や、一時休館中の対応・事業内容を検討します。	◆市民にとって新たな学びとなる事業を実施します。◆若い世代にことばの魅力を伝える事業を推進します。◆地域協力者や団体、事業所等と連携して事業を実施します。◆YouTube、X、Instagram等のSNSを活用して、効果的なPR活動を行います。

